

# 最近の米をめぐる関係資料

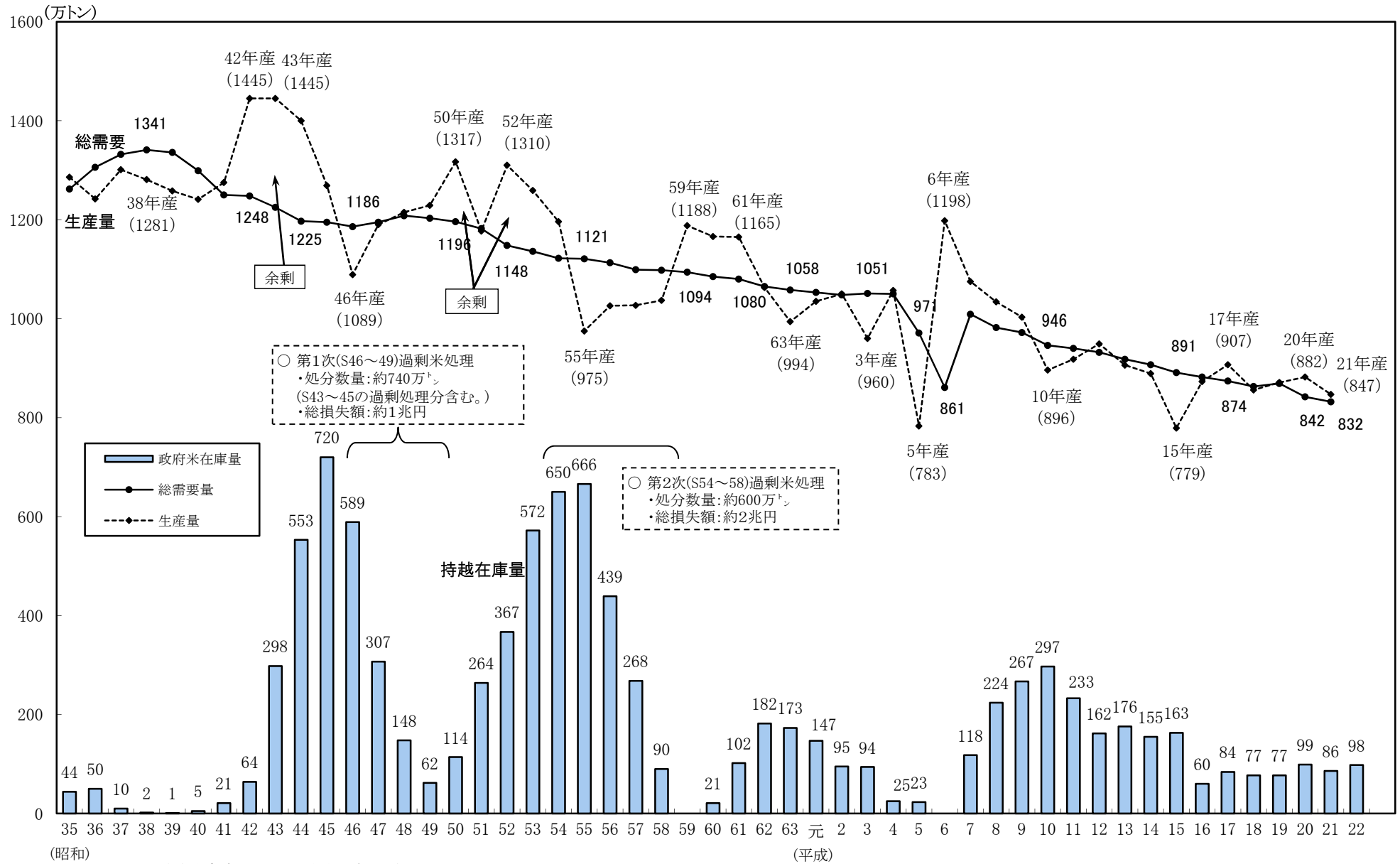
平成 2 2 年 1 1 月

**農林水産省**

# 目 次

1	米の全体需給の動向	… 1	15	MA米の販売状況	… 22
2	米の流通の状況（20年産米）	… 2～3	16	商業用のコメの輸出数量等の推移	… 23
3	家庭における米購入量の推移	… 4	17	平成22年産米の生産数量目標の設定について	… 24
	（参考1）1世帯当たりの購入量の推移（米・パン・めん類）	… 5	18	全国の需給調整の取組状況の推移	… 25
	（参考2）1世帯当たりの支出金額の推移（食料）	… 6	19	平成22年産米における都道府県別の需給調整の取組状況	… 26
4	主食用米の販売動向（米穀卸売業界調査）	… 7	20	販売目的で作付けした水稻の作付面積規模別農家数	… 27
5	外食の動向	… 8～9	21	米の作付規模別10a当たり生産費	… 28～30
6	米消費拡大の取組	… 10～12	22	収入減少影響緩和対策の補てん額	… 31
	（参考）米消費拡大の新たな動き	… 13	23	平成19～21年産米に対する収入減少影響緩和対策の補てん地域	… 32
7	米の相対取引価格の月別全銘柄平均の推移	… 14	24	平成21年産米に対する収入減少影響緩和対策の補てん単価	… 33
8	平成21年産米の相対取引価格の推移	… 15	25	平成22年度戸別所得補償モデル対策の概要	… 34
9	平成22年産米の相対取引価格	… 16	26	戸別所得補償モデル対策の加入申請状況	… 35～37
10	政府及び民間流通における6月末在庫の推移	… 17	27	平成20～22年産の新規需要米の用途別認定状況	… 38
11	政府備蓄米の在庫の状況	… 18	28	米粉用米の動向	… 39
12	需要実績及び民間在庫の推移	… 19	29	飼料用米の動向	… 40
13	最近における政府備蓄米の販売状況	… 20	30	米トレーサビリティ法の概要・スケジュール	… 41
14	MA米の輸入状況	… 21	31	商品取引所における「コメ研究会」の設置	… 42

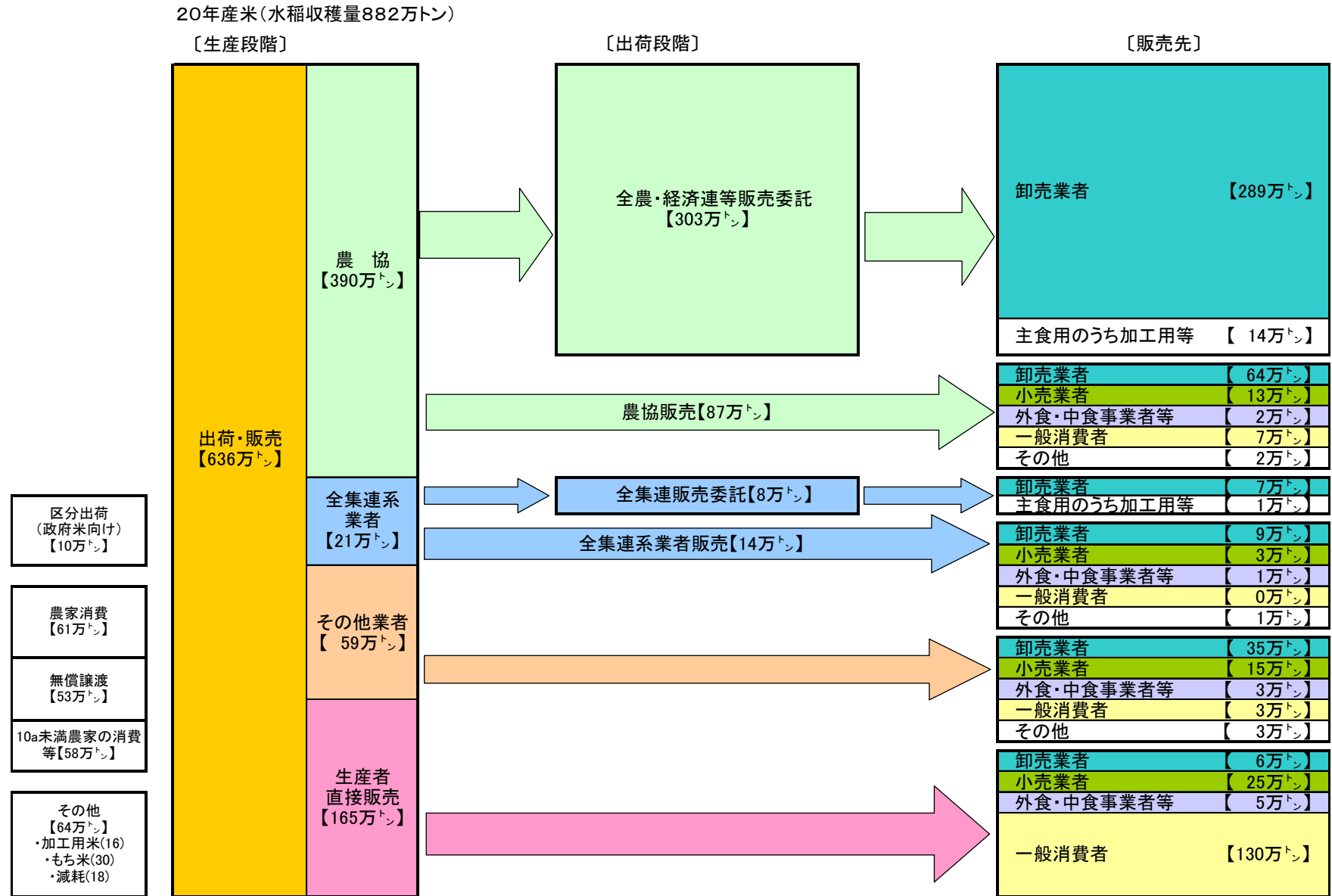
# 1 米の全体需給の動向(昭和35年～)



- 注1. 政府米在庫量は、外国産米を除いた数量である。  
 2. 在庫量は、各年10月末現在である。ただし、平成15年以降は各年6月末現在である。  
 3. 総需要量は、食料需給表における国内消費仕向量である。ただし、平成5年以降は国内消費仕向量のうち国産米のみの数量である。  
 4. 平成12年10月末持越在庫は、「平成12年緊急総合米対策」による援助用隔離等を除いた数量である。  
 5. 生産量は、水稲と陸稲の収穫量の合計である。

# 2 米の流通の状況(20年産米) ①

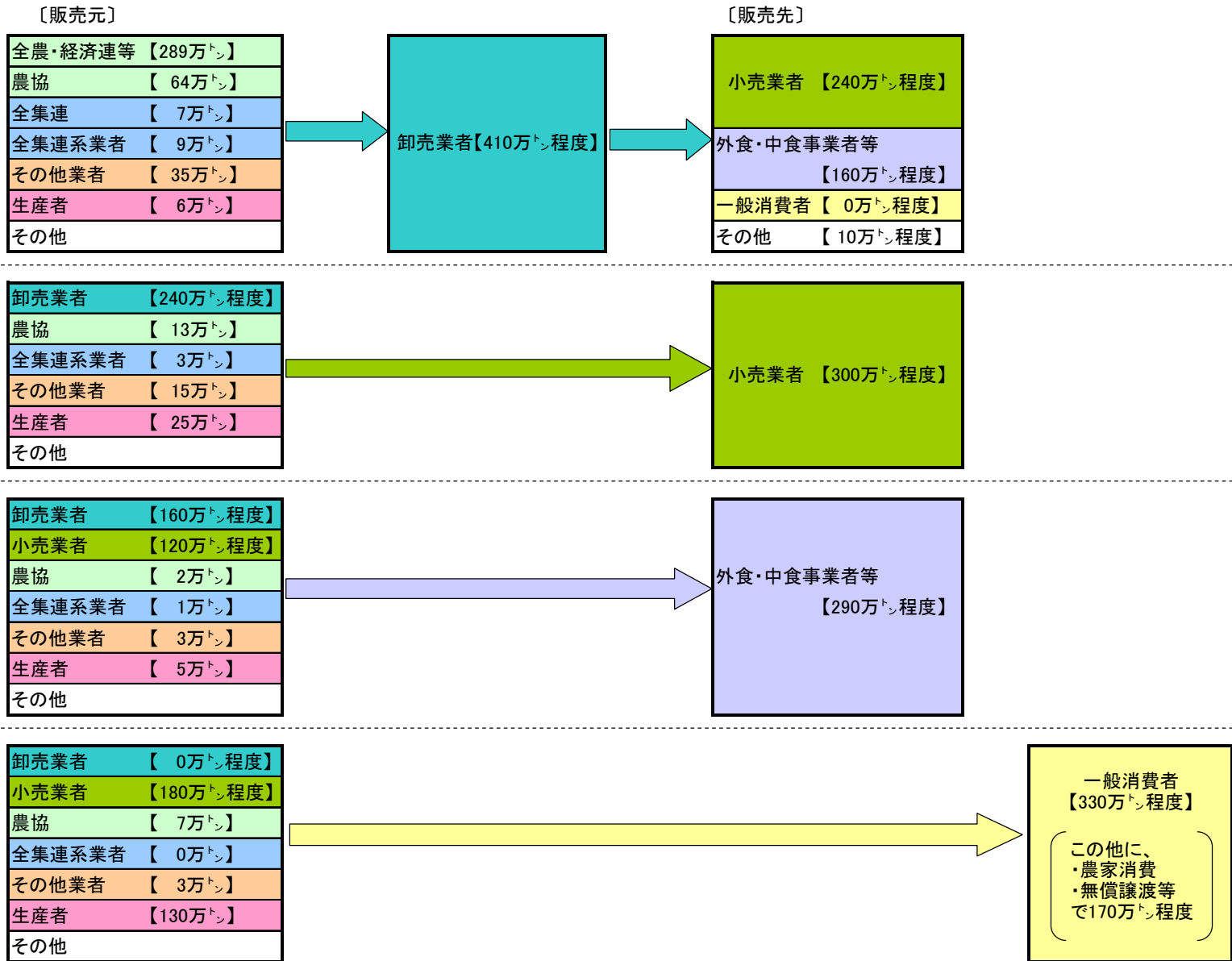
(その1)



資料:農林水産省「生産者の米穀現在高等調査」、「米穀の取引に関する報告徴収」及び全国出荷団体調べ等を基に推計。  
 注: 1) 10a未満農家の消費等は、「水稲収穫量」と「生産者の米穀現在高等調査」等の差引であり、この中から一部生産者直販やその他業者販売により流通する可能性がある。  
 2) ラウンドの関係で、計と内訳が一致しない場合がある。

# 2 米の流通の状況(20年産米) ②

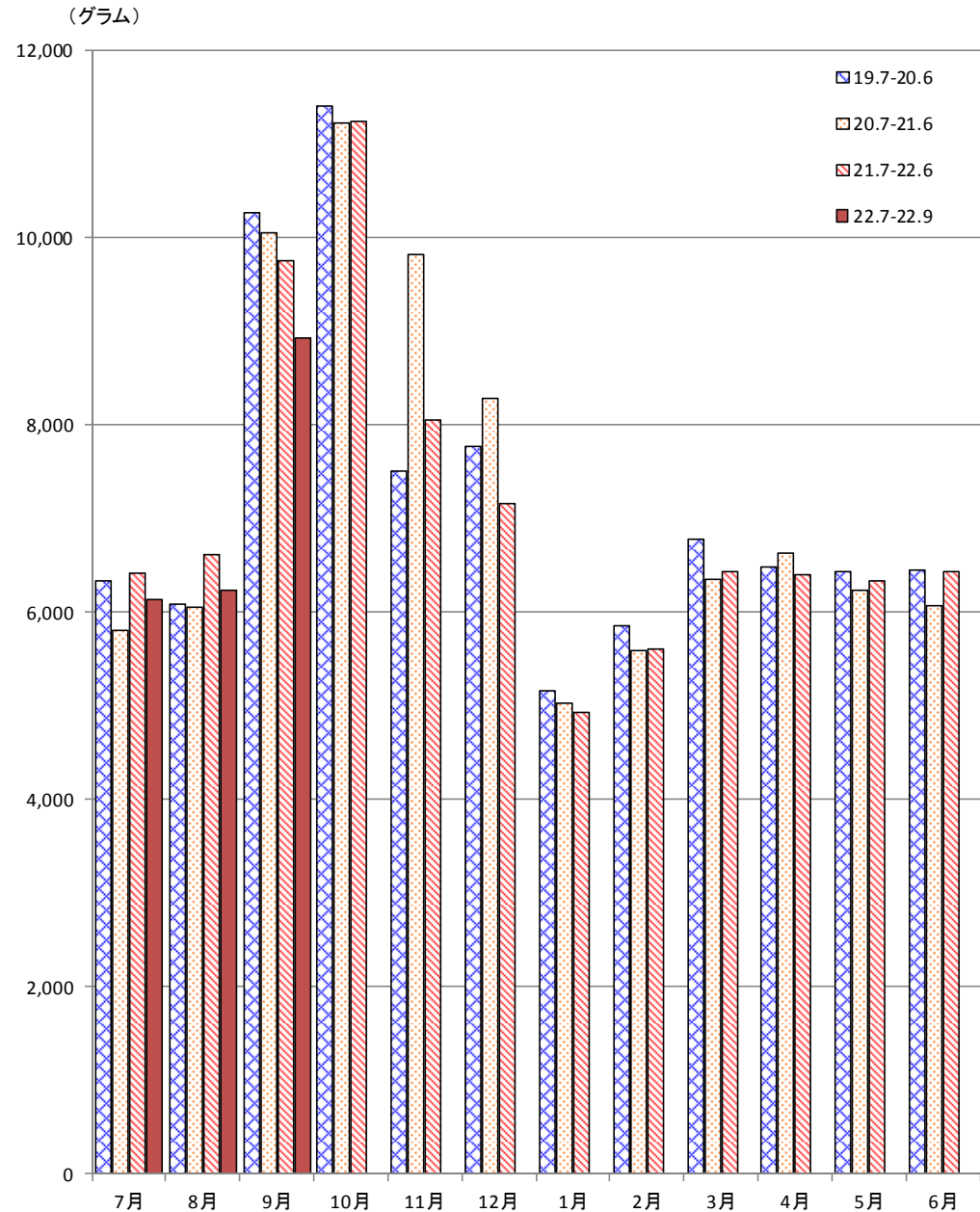
(その2)



### 3 家庭における米購入量の推移

(単位: グラム)

	月間購入量	対前年同月比	年間累計	対前年比
H19.7	6,330	0.8%	86,450	2.5%
H19.8	6,080	0.3%		
H19.9	10,250	14.8%		
H19.10	11,390	▲6.0%		
H19.11	7,500	4.0%		
H19.12	7,770	▲0.4%		
H20.1	5,160	4.7%		
H20.2	5,840	2.1%		
H20.3	6,770	6.1%		
H20.4	6,480	1.9%		
H20.5	6,430	1.9%		
H20.6	6,450	3.2%		
H20.7	5,800	▲8.4%	87,050	0.7%
H20.8	6,050	▲0.5%		
H20.9	10,050	▲2.0%		
H20.10	11,210	▲1.6%		
H20.11	9,820	30.9%		
H20.12	8,270	6.4%		
H21.1	5,020	▲2.7%		
H21.2	5,590	▲4.3%		
H21.3	6,340	▲6.4%		
H21.4	6,620	2.2%		
H21.5	6,220	▲3.3%		
H21.6	6,060	▲6.0%		
H21.7	6,410	10.5%	85,300	▲2.0%
H21.8	6,610	9.3%		
H21.9	9,750	▲3.0%		
H21.10	11,240	0.3%		
H21.11	8,040	▲18.1%		
H21.12	7,150	▲13.5%		
H22.1	4,920	▲2.0%		
H22.2	5,600	0.2%		
H22.3	6,420	1.3%		
H22.4	6,400	▲3.3%		
H22.5	6,330	1.8%		
H22.6	6,430	6.1%		
H22.7	6,140	▲4.2%	21,310	▲6.4%
H22.8	6,240	▲5.6%		
H22.9	8,930	▲8.4%		



資料: 総務省「家計調査」(二人以上の世帯)

# (参考1) 1世帯当たりの購入量の推移(米・パン・めん類)

(単位:g、%)

	米		パン		めん類	
		対前年 同月比		対前年 同月比		対前年 同月比
平成20年7月	5,800	▲ 8.4	3,670	▲ 10.0	3,385	▲ 4.0
8月	6,050	▲ 0.5	3,511	▲ 2.8	3,144	7.6
9月	10,050	▲ 2.0	3,464	▲ 3.1	2,554	3.4
10月	11,210	▲ 1.6	3,664	▲ 5.4	2,684	▲ 0.1
11月	9,820	30.9	3,521	1.6	2,821	0.2
12月	8,270	6.4	3,563	▲ 3.8	3,670	0.8
平成21年1月	5,020	▲ 2.7	3,521	▲ 2.5	2,855	8.1
2月	5,590	▲ 4.3	3,496	▲ 3.0	2,688	▲ 4.0
3月	6,340	▲ 6.4	4,032	▲ 2.1	3,122	4.4
4月	6,620	2.2	3,946	▲ 0.7	2,851	▲ 0.0
5月	6,220	▲ 3.3	4,095	4.4	3,185	6.3
6月	6,060	▲ 6.0	3,826	▲ 0.4	3,074	▲ 2.8
7月	6,410	10.5	3,848	4.9	3,457	2.1
8月	6,610	9.3	3,755	6.9	3,125	▲ 0.6
9月	9,750	▲ 3.0	3,880	12.0	2,530	▲ 0.9
10月	11,240	0.3	3,939	7.5	2,879	7.3
11月	8,040	▲ 18.1	3,736	6.1	2,994	6.1
12月	7,150	▲ 13.5	3,568	0.1	3,742	2.0
平成22年1月	4,920	▲ 2.0	3,673	4.3	2,966	3.9
2月	5,600	0.2	3,484	▲ 0.3	2,778	3.3
3月	6,420	1.3	4,119	2.2	3,135	0.4
4月	6,400	▲ 3.3	3,989	1.1	2,937	3.0
5月	6,330	1.8	3,954	▲ 3.4	3,000	▲ 5.8
6月	6,430	6.1	3,790	▲ 0.9	3,038	▲ 1.2
7月	6,140	▲ 4.2	3,850	0.1	3,503	1.3
8月	6,240	▲ 5.6	3,612	▲ 3.8	3,268	4.6
9月	8,930	▲ 8.4	3,663	▲ 5.6	2,534	0.2

資料:総務省「家計調査」(二人以上の世帯)

# (参考2) 1世帯当たりの支出金額の推移(食料)

(単位:円、%)

6

	食料																			
	米		パン		めん類		スパゲッティ		カップめん		菓子類		調理食品		外食		ハンバーガー			
	対前年比	対前年比	対前年比	対前年比	対前年比	対前年比	対前年比	対前年比	対前年比	対前年比	対前年比	対前年比	対前年比	対前年比	対前年比	対前年比	対前年比	対前年比		
12年	887,453	—	38,920	—	27,209	—	17,060	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
13年	861,235	▲3	37,045	▲5	26,062	▲4	16,649	▲2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
14年	854,518	▲1	35,292	▲5	26,455	+2	16,754	+1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
15年	838,918	▲2	35,903	+2	26,871	+2	16,473	▲2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
16年	835,676	▲0	35,801	▲0	27,307	+2	16,121	▲2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
17年	824,394	▲1	31,676	▲12	25,974	▲5	15,197	▲6	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
18年	891,439	+8	30,968	▲2	26,560	+2	16,294	+7	1,021	—	2,952	—	75,463	—	101,905	—	159,676	—	3,506	
19年	901,601	+1	30,680	▲1	27,097	+2	16,415	+1	1,082	+6	2,941	▲0	76,160	+1	100,910	▲1	164,860	+3	3,785	
20年	905,556	+0	31,229	+2	28,127	+4	17,986	+10	1,357	+25	3,015	+3	78,970	+4	98,567	▲2	164,894	+0	4,046	
21年	896,129	▲1	30,496	▲2	28,966	+3	18,423	+2	1,400	+3	3,293	+9	80,403	+2	98,469	▲0	161,314	▲2	4,352	
22年1月	69,851	+0	1,815	▲0	2,255	▲0	1,369	+2	103	▲4	287	+8	6,395	+3	7,786	+2	14,723	+5	423	
2月	65,125	▲1	1,980	▲4	2,231	▲4	1,281	+1	106	▲6	289	+11	6,388	▲1	7,320	+1	11,510	+2	339	
3月	72,571	▲1	2,248	▲6	2,518	▲2	1,447	▲1	124	▲11	316	+6	7,189	▲2	7,925	+1	13,422	+1	418	
4月	69,356	▲2	2,259	▲7	2,468	▲2	1,364	▲4	116	▲8	271	+4	6,199	▲2	7,641	+1	12,413	+0	351	
5月	74,946	▲3	2,282	▲5	2,507	▲4	1,504	▲8	112	▲13	262	▲0	6,727	▲3	7,920	+2	14,786	▲2	354	
6月	70,176	▲2	2,285	+2	2,402	▲1	1,612	▲2	98	▲11	223	▲3	5,919	▲3	7,597	+2	11,738	▲5	284	
7月	74,628	▲0	2,183	▲6	2,365	▲3	1,895	▲4	97	▲12	222	▲6	6,410	±0	8,834	+2	13,235	+1	397	
8月	78,692	▲2	2,114	▲13	2,250	▲5	1,680	▲1	101	▲20	247	▲5	7,547	▲1	8,802	+2	15,535	▲3	498	
9月	70,544	▲2	2,927	▲8	2,237	▲3	1,280	+0	104	▲6	258	▲2	5,806	▲5	7,970	+1	12,306	▲7	337	

資料:総務省「家計調査」(二人以上の世帯)



# 4 主食用米の販売動向(米穀卸売業界調査)

## [調査の概要]

全国米穀販売事業共済協同組合が、米穀の販売・需要動向を多角的に把握することを目的として、同組合会員企業を対象に実施。四半期ごとに継続的に調査。

- アンケート発送数 187会員（うち回答数106会員）
- 調査期間 平成22年8月5日（木）～ 8月31日（火）

### 1. 現在（22年7月）の米販売量（前年同月との比較）

集計結果	合計	増えた	やや増えた	変わらない	やや減った	減った
	100%	12.3%	14.2%	24.5%	<b>26.4%</b>	22.6%
—販売先別—	合計	増えた	やや増えた	変わらない	やや減った	減った
大手スーパー	100%	9.8%	19.7%	26.2%	<b>29.5%</b>	14.8%
中小スーパー	100%	11.0%	8.8%	<b>37.4%</b>	26.4%	16.5%
米穀専門店	100%	1.0%	11.3%	24.7%	<b>41.2%</b>	21.6%
その他	100%	8.5%	12.7%	<b>38.0%</b>	14.1%	26.8%
ファミレス	100%	2.6%	5.1%	<b>66.7%</b>	23.1%	2.6%
ファストフード	100%	2.9%	14.7%	<b>47.1%</b>	29.4%	5.9%
一般飲食店	100%	1.4%	7.0%	<b>49.3%</b>	36.6%	5.6%
中食向け	100%	3.8%	15.4%	<b>57.7%</b>	16.7%	6.4%
給食向け	100%	1.3%	5.1%	<b>68.4%</b>	19.0%	6.3%

\*1. 太字は、最頻値。

2. DI (diffusion index) の算出方法：内閣府で発表している「景気ウォッチャー調査」方式を採用した。具体的には、5つの回答選択肢に均等に0~1の評価点を与え、各回答の構成比に対応するそれぞれの評価点を乗じ、それらの合計を指数(%ポイント)としてDI値を算出。それが50の場合は横ばい(現状維持)を示す。0に近づくほど販売が低迷傾向にあることを示し、逆に100に近づくほど販売が好調傾向であることを示す。

### 2. 米販売の動き：過去3ヶ月前との比較 / 3ヶ月後の見通し

#### (1) 過去3ヶ月前（22年4月）と比較した22年7月の動き

合計	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている	DI値
100.0%	1.9%	17.0%	<b>36.8%</b>	31.1%	13.2%	40.8

#### (参考) 前回調査 22年1月と比較した22年4月の動き

100.0%	8.0%	<b>35.4%</b>	27.4%	22.1%	7.1%	53.8
--------	------	--------------	-------	-------	------	------

#### (2) 22年7月から3ヶ月後（22年10月頃）の見通し

合計	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている	DI値
100%	2.8%	27.4%	<b>36.8%</b>	29.2%	3.8%	49.1

#### (参考) 前回調査 22年4月から3ヶ月後（22年7月頃）の見通し

100%	2.7%	23.0%	<b>46.9%</b>	24.8%	2.7%	49.6
------	------	-------	--------------	-------	------	------

(算出例)	増えた	やや増えた	変わらない	やや減った	減った
評 価 点 A	1	0.75	0.5	0.25	0
結 果 ( 構 成 比 ) B	17.8	20.0	20.0	22.2	20.0
各 DI 値 C = A × B	17.8	15	10	5.6	0
DI 値 ( 合 計 )	48.4 → 販売は低迷傾向				

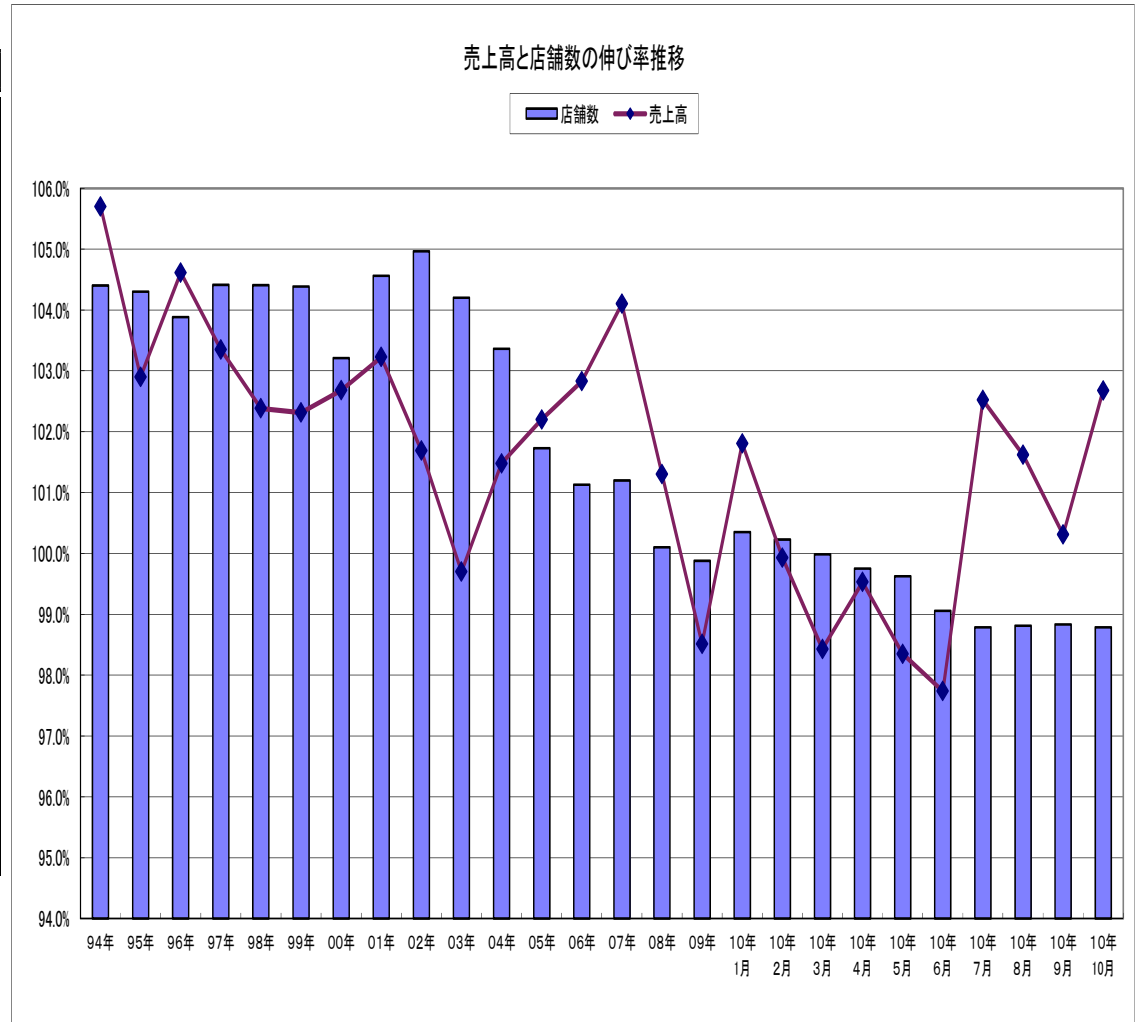
# 5 外食の動向 ①

「外食産業市場動向調査」 10月度全店データ（社団法人日本フードサービス協会）

## 1. 全店データ(前年同月比)

		売上高	店舗数	客数	客単価
		事業社数	店舗数	前年比	前年比
	<b>全体</b>	(N=196)	(N=29422)	102.7%	98.8%
ファーストフード	<b>合計</b>	(N= 52)	(N=15883)	102.7%	99.4%
	洋風	(N= 18)	(N=7259)	99.9%	94.6%
	和風	(N= 8)	(N=2176)	104.7%	102.9%
	種類	(N= 23)	(N=2544)	110.4%	110.5%
	持ち帰り米飯/回転寿司	(N= 13)	(N=1689)	103.9%	96.8%
	その他	(N= 6)	(N=2215)	108.5%	103.2%
ファミリーレストラン	<b>合計</b>	(N= 57)	(N=8650)	103.5%	97.1%
	洋風	(N= 30)	(N=4106)	106.4%	98.8%
	和風	(N= 23)	(N=2233)	100.3%	93.6%
	中華	(N= 7)	(N=1042)	96.2%	98.6%
	焼き肉	(N= 18)	(N=1269)	108.2%	97.1%
パブ/居酒屋	<b>合計</b>	(N= 34)	(N=2186)	99.9%	102.2%
	パブ・ビアホール	(N= 8)	(N=325)	93.1%	91.0%
	居酒屋	(N= 30)	(N=1861)	101.2%	104.5%
ディナーレストラン(計)		(N= 27)	(N=686)	104.2%	97.7%
喫茶(計)		(N= 12)	(N=1662)	101.2%	98.1%
その他(計)		(N= 14)	(N=355)	101.3%	97.8%

\*ファーストフード、ファミリーレストラン、パブ/居酒屋の各業態の内訳に関しては、重複する事業社があるため合計の数値は必ずしも内訳の累積に一致しない。



(社団法人日本フードサービス協会ホームページより)

## 5 外食の動向 ②

### 2. 全店時系列データ(前年同月比)

#### a. 売上高前年同月比

	09年10月	11月	12月	10年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
全 体	100.4%	94.2%	97.6%	101.8%	99.9%	98.4%	99.5%	98.3%	97.7%	102.5%	101.6%	100.3%	102.7%
ファーストフード	105.9%	97.3%	98.5%	104.9%	102.2%	98.9%	101.8%	99.3%	100.3%	106.5%	103.6%	101.4%	102.7%
ファミリーレストラン	97.2%	91.7%	98.3%	100.2%	98.2%	98.9%	98.3%	98.4%	95.3%	98.4%	100.0%	99.8%	103.5%
パブレストラン/居酒屋	92.8%	89.3%	94.7%	96.9%	97.1%	96.1%	93.4%	93.4%	94.7%	97.4%	98.8%	98.2%	99.9%
ディナーレストラン	91.9%	89.1%	94.0%	97.0%	96.7%	97.2%	100.0%	97.8%	94.7%	102.5%	97.5%	93.4%	104.2%
喫茶	93.5%	93.8%	96.0%	98.9%	96.3%	97.3%	98.4%	99.8%	99.5%	101.1%	102.1%	102.2%	101.2%
その他	90.4%	91.4%	91.9%	94.0%	96.0%	93.0%	95.7%	94.8%	89.7%	96.1%	94.9%	94.7%	101.3%

#### b. 店舗数前年同月比

	09年10月	11月	12月	10年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
全 体	99.9%	99.5%	100.3%	100.3%	100.2%	100.0%	99.8%	99.6%	99.1%	98.8%	98.8%	98.8%	98.8%
ファーストフード	102.0%	101.8%	101.9%	101.7%	101.5%	101.3%	100.5%	100.2%	99.5%	99.2%	99.3%	99.4%	99.4%
ファミリーレストラン	96.8%	96.3%	98.4%	98.2%	98.2%	98.0%	98.2%	98.5%	98.0%	97.7%	97.5%	97.1%	97.1%
パブレストラン/居酒屋	99.2%	98.7%	99.7%	101.6%	100.5%	100.0%	100.8%	100.7%	101.8%	100.4%	101.4%	100.8%	102.2%
ディナーレストラン	98.3%	97.7%	97.3%	97.2%	97.3%	98.5%	97.3%	97.3%	97.3%	98.5%	97.5%	97.2%	97.7%
喫茶	100.0%	98.9%	99.4%	99.6%	99.7%	99.8%	100.2%	99.6%	99.9%	100.2%	99.4%	100.1%	98.1%
その他	96.4%	95.9%	92.9%	94.5%	98.1%	97.2%	99.2%	97.7%	94.3%	93.8%	96.8%	97.4%	97.8%

#### c. 利用客数前年同月比

	09年10月	11月	12月	10年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
全 体	102.2%	99.8%	101.9%	105.9%	101.5%	101.3%	102.9%	101.4%	99.4%	102.9%	103.6%	103.9%	104.4%
ファーストフード	105.4%	103.2%	103.3%	108.0%	102.3%	101.6%	105.2%	101.8%	100.1%	104.2%	104.3%	106.0%	105.4%
ファミリーレストラン	100.0%	95.3%	102.3%	105.1%	101.8%	101.9%	100.1%	101.5%	97.9%	100.6%	102.2%	98.8%	103.5%
パブレストラン/居酒屋	93.9%	91.7%	95.4%	98.7%	100.0%	97.5%	92.3%	94.8%	97.4%	100.3%	101.1%	99.1%	101.4%
ディナーレストラン	91.5%	90.2%	94.1%	96.3%	95.5%	95.9%	98.1%	97.5%	93.8%	101.1%	98.7%	94.5%	103.1%
喫茶	94.0%	94.5%	95.7%	98.4%	96.6%	99.2%	99.2%	101.4%	101.0%	102.3%	105.8%	103.1%	100.7%
その他	90.8%	89.8%	91.4%	97.4%	96.0%	97.0%	100.9%	98.9%	88.8%	96.2%	94.8%	96.6%	101.3%

#### d. 客単価前年同月比

	09年10月	11月	12月	10年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
全 体	98.2%	94.5%	95.8%	96.1%	98.5%	97.2%	96.8%	97.0%	98.4%	99.6%	98.1%	96.6%	98.3%
ファーストフード	100.5%	94.3%	95.4%	97.1%	99.9%	97.3%	96.8%	97.6%	100.1%	102.2%	99.4%	95.6%	97.4%
ファミリーレストラン	97.2%	96.3%	96.1%	95.3%	96.4%	97.1%	98.2%	96.9%	97.4%	97.8%	97.8%	101.1%	100.0%
パブレストラン/居酒屋	98.8%	97.4%	99.2%	98.3%	97.1%	98.6%	101.2%	98.6%	97.3%	97.1%	97.7%	99.1%	98.5%
ディナーレストラン	100.4%	98.8%	99.9%	100.7%	101.3%	101.4%	101.9%	100.3%	100.9%	101.4%	98.8%	98.8%	101.1%
喫茶	99.5%	99.3%	100.3%	100.4%	99.7%	98.0%	99.2%	98.5%	98.5%	98.9%	96.4%	99.1%	100.5%
その他	99.6%	101.8%	100.6%	96.5%	100.0%	95.9%	94.9%	95.8%	101.0%	99.8%	100.1%	98.1%	100.0%

(社団法人日本フードサービス協会ホームページより)

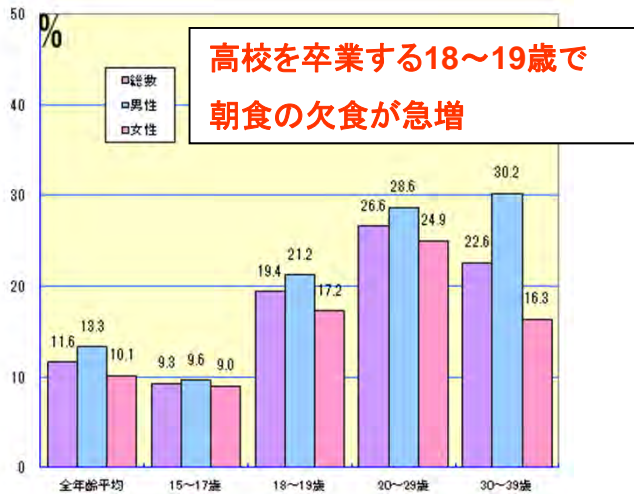
## 6 米消費拡大の取組 ①

### 「めざましごはんキャンペーン」の展開

朝食欠食の改善や米を中心とした日本型食生活の普及・啓発により食料自給率向上に資するため、各種広報媒体を活用した情報提供を実施。

また、食品関係企業、団体等(約4千社)と連携し、官民挙げてのキャンペーンを実施。

キャンペーン参加企業は、ロゴマークの商品貼付や、ポスター、CM映像等を活用し、米関連商品と連動した販促活動を実施。



「早寝早起き朝ごはん」国民運動とも連携



### めざましごはんでジンセイ変わるよ!

AKB48のパワーと集中力のもと朝ごはん!



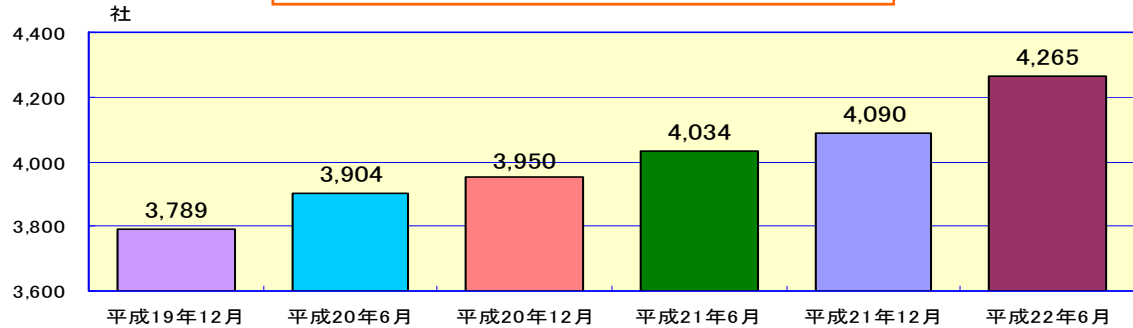
やる気が出る! 頭が働く! 実証、朝ごはん効果!



農林水産省

資料:厚生労働省「平成19年国民健康・栄養調査」

○約4千の企業がキャンペーンに参加

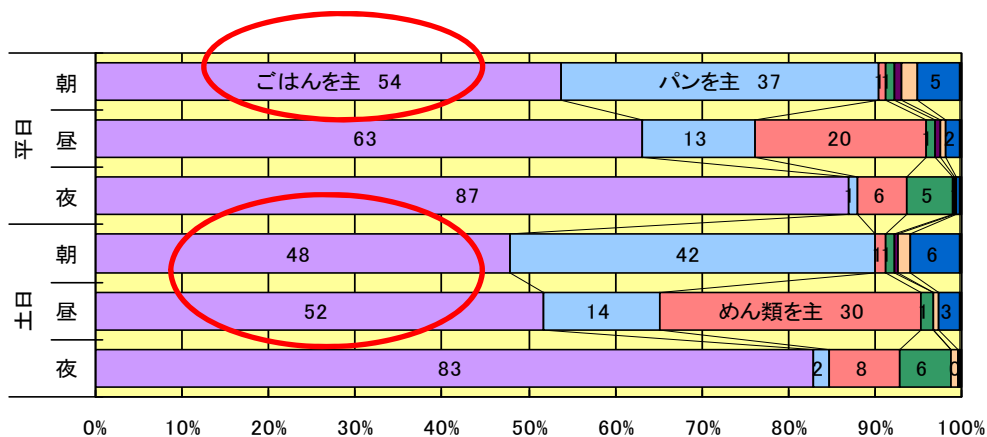


## 6 米消費拡大の取組 ②

### 朝食の内容と欠食の市場規模

- 朝食市場は、欠食が多い上に、ごはん食比率の低い市場。
- 若年層(20~30歳代、特に単身者)を中心とした朝食の欠食は、**年間約62億食、総額約1.8兆円**の市場に相当。

食事内容の構成(平成19年)



■ ごはん(お餅を含む)を主とした食事
 ■ パンを主とした食事
 ■ めん類を主とした食事
 ■ 副食のみ
 ■ その他(菓子類、果物等)
 ■ 栄養補助食品等
 ■ 食事を摂らなかった
 ■ 無回答

資料:平成19年度第4回食料消費モニター調査

朝食欠食の市場規模

	全国			
	平均	20歳代	30歳代	40歳代
朝食欠食率 (%)	13.2	28.1	24.7	20.3
人口(20年10月1日) (千人)	127,692	14,735	18,605	16,187
1日の欠食数 (千人)	16,855	4,141	4,595	3,286
年間欠食数 (億食)	62	15	17	12
市場規模 (億円)	18,000	4,500	5,100	3,600

資料:厚生労働省平成20年「国民健康・栄養調査結果の概要」  
総務省人口推計(平成20年10月1日)

注:市場規模は、1食あたり300円として試算。



## 6 米消費拡大の取組 ③

### 米飯学校給食実施回数の新たな目標

文部科学省は、平成21年3月に米飯学校給食の新たな目標として「週3回以上」(週3回以上の地域や学校については、週4回などの目標設定を促す)を通知。

#### 学校における米飯給食の推進について

平成21年3月31日  
文部科学省スポーツ・青少年局長通知(抜粋)

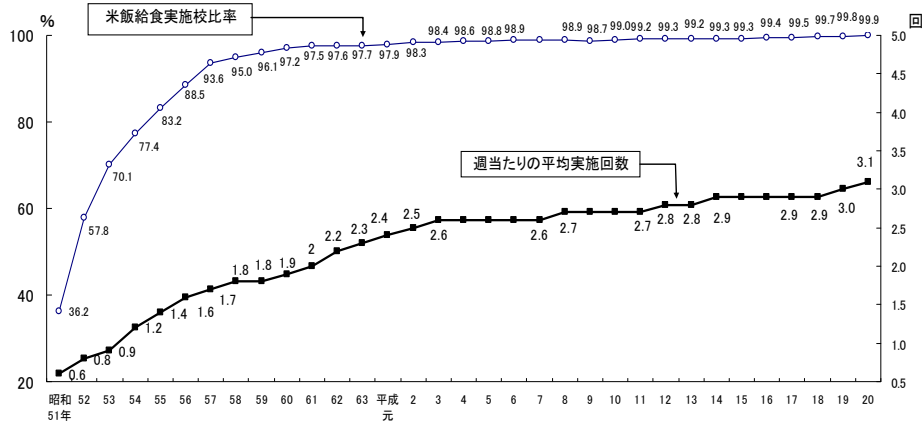
米飯給食の推進については、週3回以上を目標として推進するものとする。この場合、地場産物の活用推進の観点から、地場産の米や小麦を活用したパン給食など、地域の特性を踏まえた取組にも配慮する。

また、地域や学校の事情等により実施回数が異なっている現状にかんがみ、以下のように、地域や学校の事情等に応じた段階的、漸進的な実施回数の増加を促すこととする。

(1) 大都市等実施回数が週3回未満の地域や学校については、週3回程度への実施回数の増加を図る。

(2) 既に過半を占める週3回以上の地域や学校については、週4回程度などの新たな目標を設定し、実施回数の増加を図る。

#### ○ 米飯学校給食実施回数の推移



出典：米飯給食実施状況調査（平成20年度調査：文部科学省）

### 農林水産省の取組

12

米飯学校給食は、味覚を育む子どもたちに米を中心とした「日本型食生活」の普及・定着を図る上で重要。  
農林水産省は、文部科学省と連携して、米飯学校給食を一層普及・推進。

#### 米飯学校給食情報交換会・メニュー講座及びごはんで給食先進事例等の開催

- ・大都市部(東京、大阪、神奈川、埼玉を想定)で、学校給食関係者に対して米飯給食の効用等を普及・啓発する「米飯学校給食情報交換会」、米飯給食メニューの普及を図る「メニュー講座」を開催
- ・全国各地の米飯学校給食の優良事例を、全国に紹介する「ごはんで給食先進事例」を実施

#### 政府備蓄米の無償交付

米飯学校給食を増加させようとする学校等に対し、回数の対前年度純増分全量を政府備蓄米(直近年産米)で無償交付

#### 給食関係者への要請活動

全国の農政局や農政事務所から、市町村等の学校給食関係者へ米飯学校給食の一層の推進を要請



## (参考) 米消費拡大の新たな動き(三洋電機ライスブレッドクッカー「GOPAN」について)



- 発売予定日 11月11日
- 販売価格 5万円程度
- 1斤分の材料
  - ・米 220g
  - ・水 200g
  - ・グルテン 50g
  - ・ショートニング、ドライイースト他
  - ・1斤当たり148円

〔参考：米粉パン(米粉ミックス粉を使用した場合)〕  
1斤当たり 336円

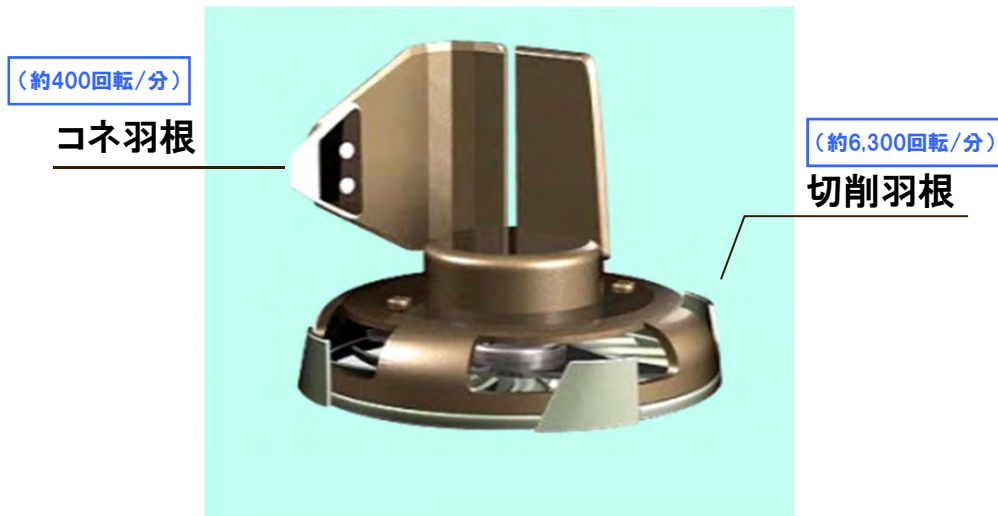
### 「GOPAN」に搭載されている米パンを製造するための世界初の新技術

#### 米ペースト製法



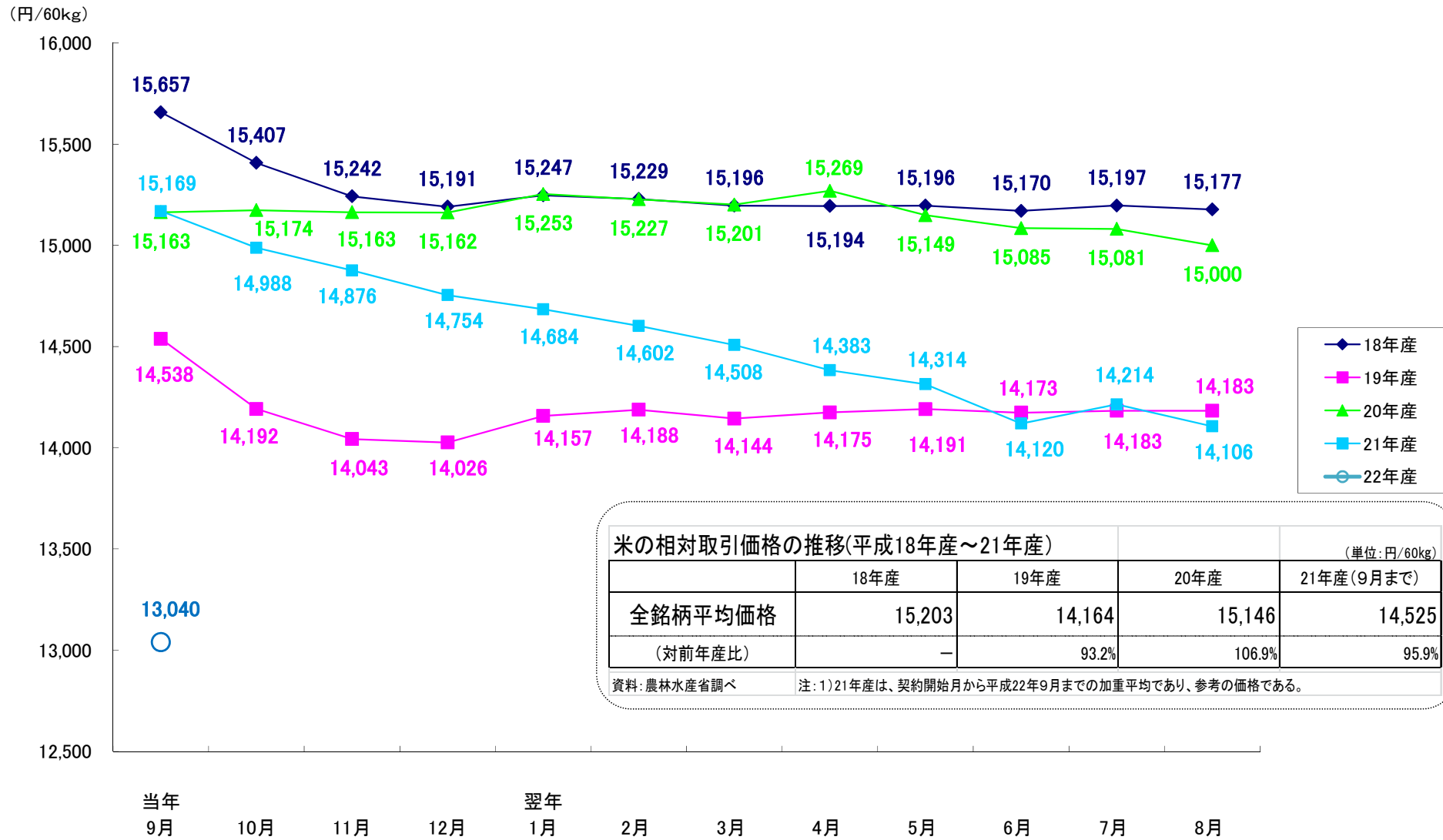
米を粉状にするのではなく、米と水を切削・攪拌し、ペースト状にして生地をつくる技術を開発

#### 正逆回転モーター機構



米を切削する工程、生地をこねる工程、それぞれに求められる異なる2つの回転数を1つの回転軸で実現

# 7 米の相対取引価格の月別全銘柄平均の推移(平成18年産~22年産)



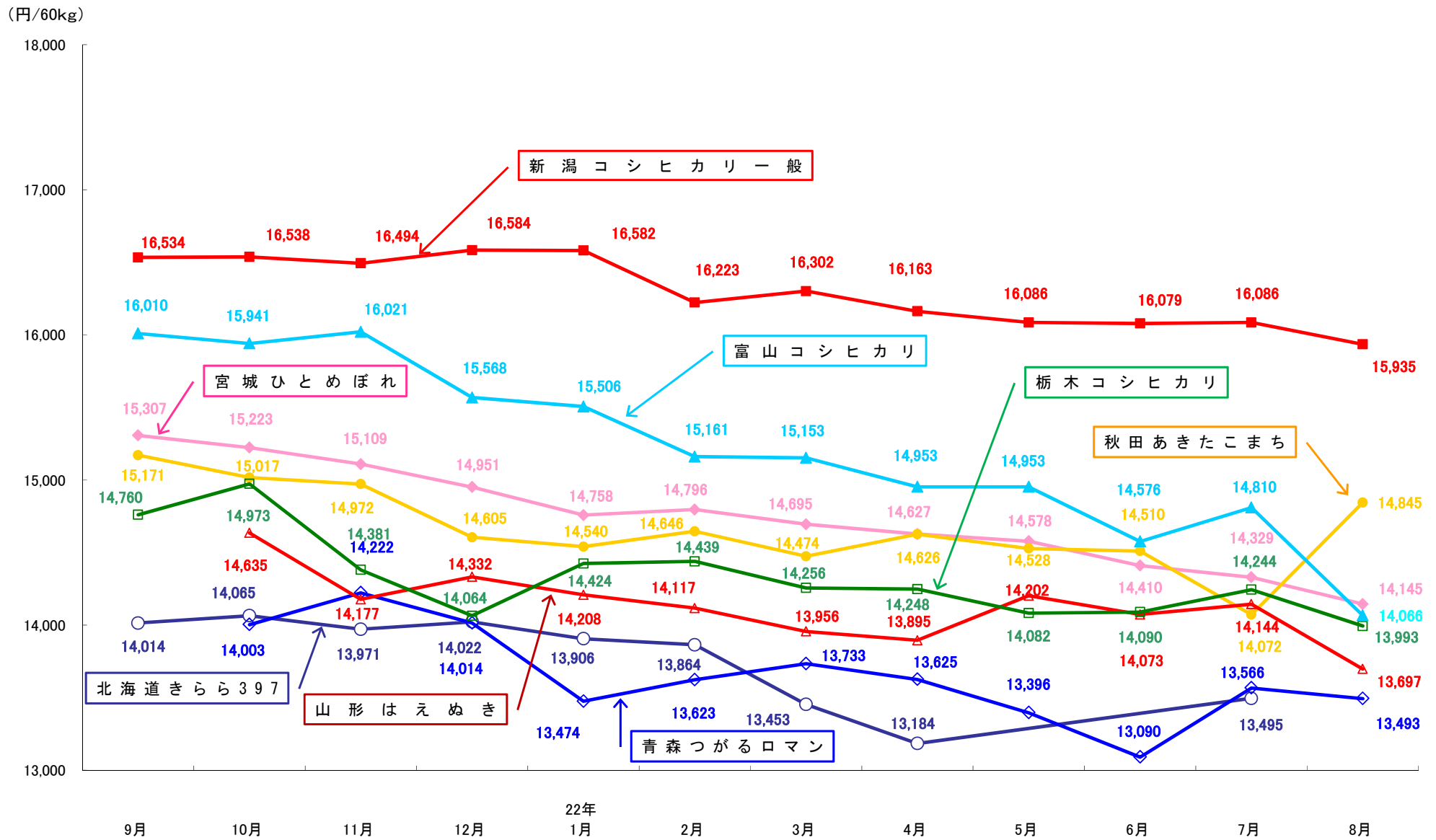
資料: 農林水産省調べ

注1: 価格には、運賃、包装代、消費税相当額が含まれている。

2: 産地銘柄ごとの価格を前年産検査数量ウェイトで加重平均した価格である。



# 8 平成21年産米の相対取引価格の推移



## 9 平成22年産米の相対取引価格(出荷業者)(速報:22年9月)

(単位:円/玄米60kg)

産地	品種銘柄	地域区分	22年9月 ①	参考	
				21年9月 ③	対前年比 ①/③
北海道	きらら397		11,013	14,014	79%
北海道	ななつぼし		11,525	14,197	81%
宮城	ひとめぼれ		12,717	15,307	83%
秋田	あきたこまち		12,965	15,171	85%
山形	はえぬき		12,032	-	-
茨城	コシヒカリ		13,152	14,782	89%
栃木	コシヒカリ		12,920	14,760	88%
千葉	コシヒカリ		13,313	14,380	93%
新潟	コシヒカリ	一般	15,348	16,534	93%
新潟	コシヒカリ	魚沼	21,663	23,454	92%
新潟	コシヒカリ	岩船	15,660	16,857	93%
新潟	コシヒカリ	佐渡	15,674	16,869	93%
富山	コシヒカリ		13,781	16,010	86%

産地	品種銘柄	地域区分	22年9月 ①	参考	
				21年9月 ③	対前年比 ①/③
福井	コシヒカリ		13,949	15,480	90%
福井	ハナエチゼン		13,079	14,138	93%
三重	コシヒカリ	一般	13,667	15,173	90%
滋賀	コシヒカリ		13,578	15,347	88%
京都	コシヒカリ		14,363	-	-
兵庫	コシヒカリ		13,753	-	-
鳥取	コシヒカリ		13,449	-	-
島根	コシヒカリ		13,645	15,430	88%
広島	コシヒカリ		12,611	-	-
徳島	コシヒカリ		12,266	-	-
熊本	コシヒカリ		13,560	-	-
宮崎	コシヒカリ		13,622	-	-
全銘柄平均価格			13,040	15,169	86%

資料:農林水産省「米穀の取引に関する報告」

注:1)相対取引価格は、①全国出荷団体、②年間の玄米仕入数量が5,000トン以上の道県出荷団体等、③年間の直接販売数量が5,000トン以上の出荷業者と卸売業者等の主食用の相対取引契約(数量と価格が決定した時点を基準としている。)の価格(運賃、包装代、消費税相当額を含む1等米の価格。)であり、その契約数量を用いて加重平均した価格である。

その際、新潟、長野、静岡以東(東日本)の産地品種銘柄については受渡地を東日本としているものを、富山、岐阜、愛知以西(西日本)の産地品種銘柄については受渡地を西日本としているものを加重平均している。

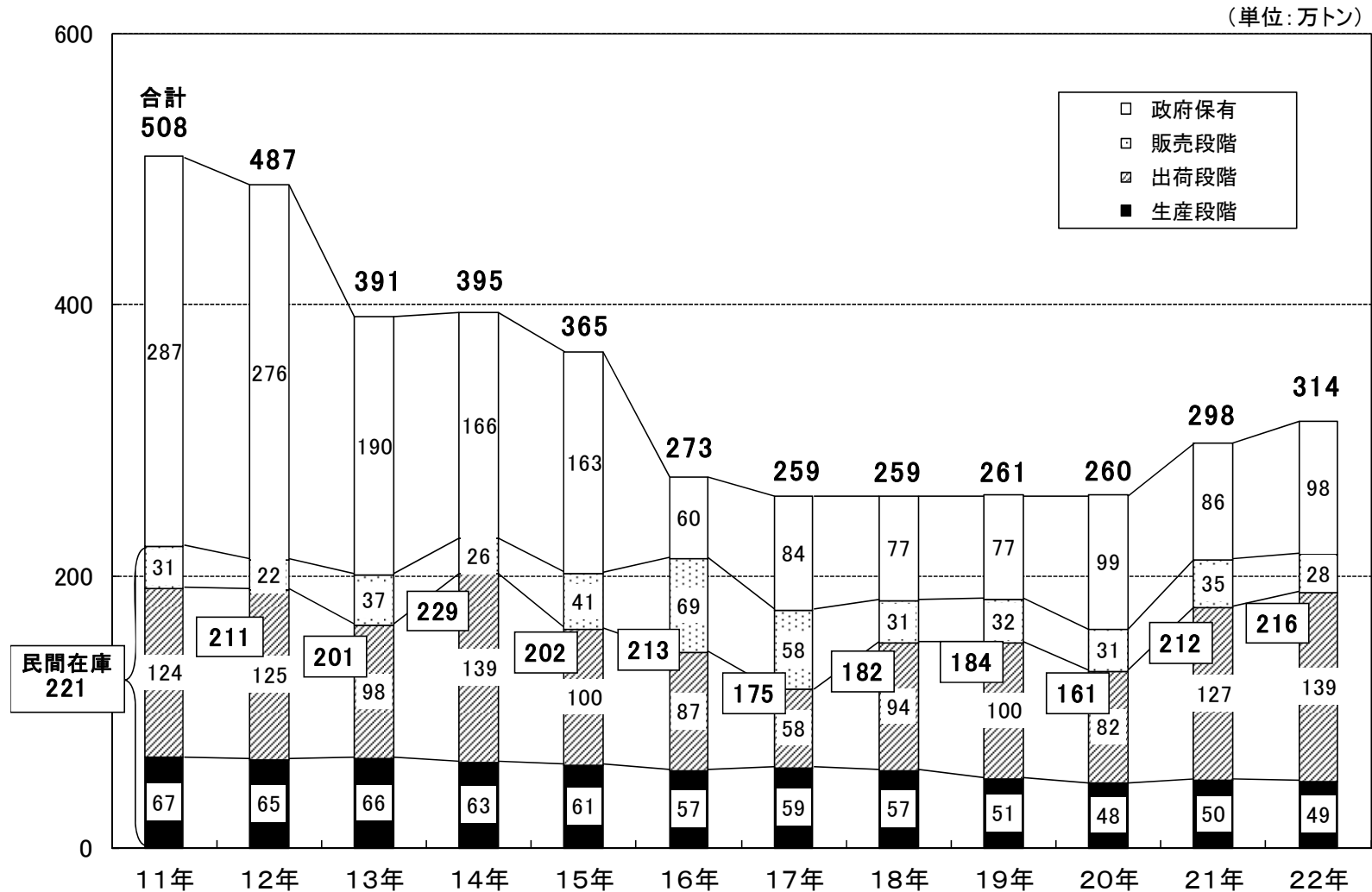
2)また、相対取引価格は、個々の契約数量に応じて設定される大口割引等の割引などが適用された価格であり、実際の引取状況に応じて等級及び付加価値等(栽培方法等)の価格調整が行われることがある。

3)産地品種銘柄は、21年産の公表対象産地品種銘柄または公表対象となっていなかった府県の21年産検査数量上位の1品種銘柄で、かつ、月1,000トン以上の取引があったものである。

4)全銘柄平均価格は、報告対象産地品種銘柄ごとの前年産検査数量ウェイトで加重平均した価格である。

5)21年9月は21年産の価格である。

# 10 政府及び民間流通における6月末在庫の推移



資料：農林水産省調べ

注：1) うち玄米及びもち玄米の値である。

2) 各年の民間在庫量において、

① 16年以降については、年間玄米取扱数量500トン以上の業者(販売・出荷段階)の数量である。

② 15年については、

- ・ 販売段階の在庫量は、年間玄米取扱数量500トン以上の旧登録卸売業者と1,000トン以上の旧登録小売業者の数量である。

- ・ 出荷段階の在庫量は、年間玄米取扱数量500トン以上の業者の数量である。

③ 14年以前については推計値であり、

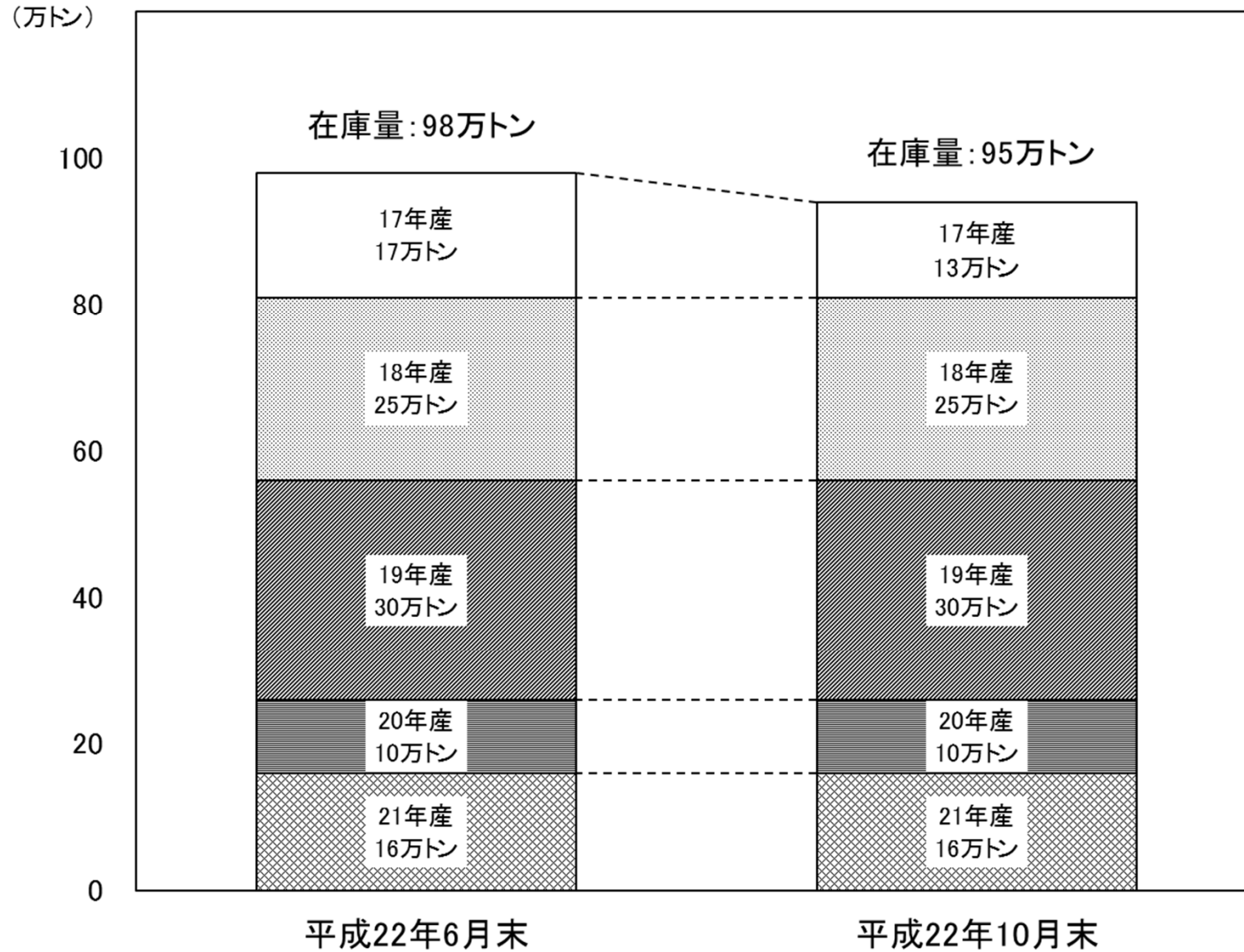
- ・ 販売段階の在庫量は、卸在庫量に小売在庫量(推計)を加えた数量である。

- ・ 出荷段階の在庫量は、系統在庫量に非系統在庫量(推計)を加えた数量である。

なお、生産段階の在庫量は、「生産者の米穀現在高等調査」を基に算出した在庫量から精米在庫量(推計)を控除した玄米在庫量である。

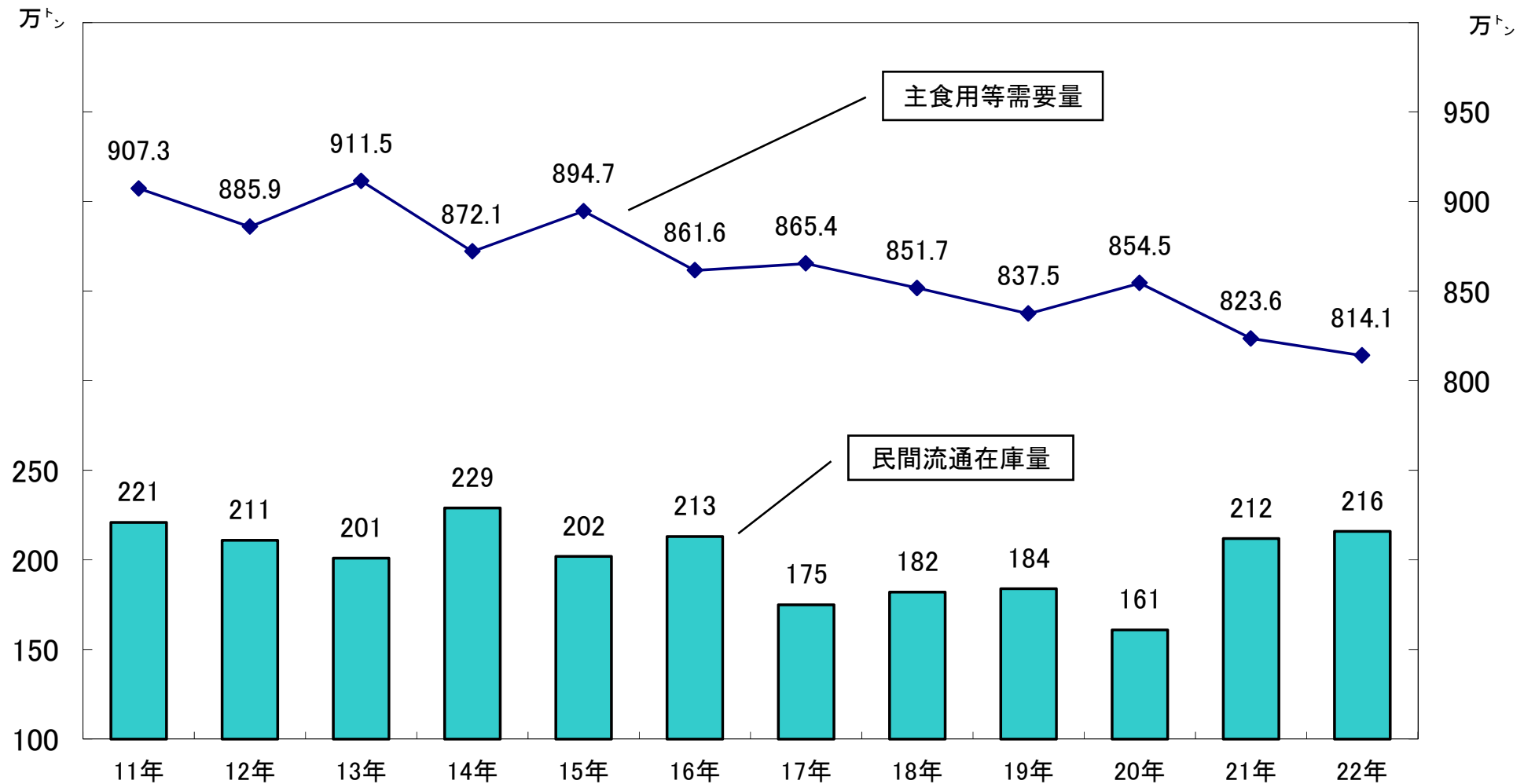
3) ラウンドの関係で合計と内訳が一致しない場合がある。

# 11 政府備蓄米の在庫の状況(平成22年10月末現在)



注:ラウンドの関係で合計と内訳が一致しない場合がある。

## 12 需要実績及び民間在庫の推移



(注1) 主食用等需要量は前年7月から当年6月までの需要実績である。

(注2) 民間流通在庫量は当年6月末現在の数値である。

## 13 最近における政府備蓄米の販売状況

(単位:千トン)

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	計
19/20年	17	24	20	21	20	7	0	1	0	1	0	6	117
20/21年	26	34	15	14	16	17	13	13	13	14	10	11	196
21/22年	6	4	4	3	3	2	1	2	2	1	2	1	31
22/23年	1	1	0	0									2

注 1 : 期間については、22/23年であれば、平成22年7月～23年6月である。

2 : 販売数量は実際に卸売業者等が引き取った実績であり、契約数量とは異なる。

## 14 MA米の輸入状況

### ○ MA米の輸入数量(輸入先国別)

(単位:万玄米トン)

	平成7年度輸入	平成8年度輸入	平成9年度輸入	平成10年度輸入	平成11年度輸入	平成12年度輸入	平成13年度輸入	平成14年度輸入
米国	19	23	29	32	34	36	36	36
タイ	11	14	15	15	16	17	15	15
中国	3	4	5	8	9	10	14	11
オーストラリア	9	9	9	11	11	12	11	10
その他	1	1	2	2	2	2	1	5
合計	43	51	60	68	72	77	77	77

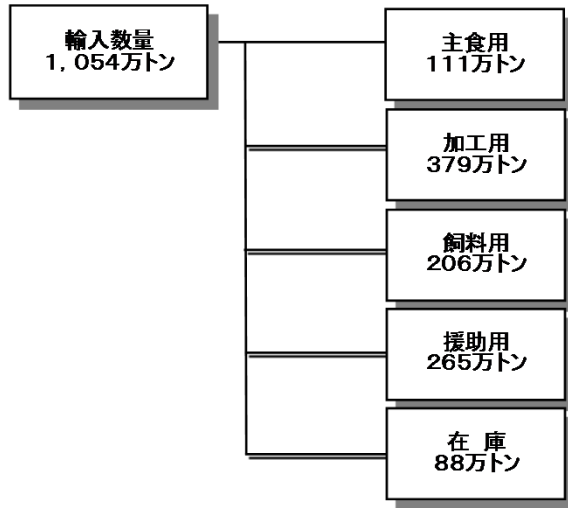
	平成15年度輸入	平成16年度輸入	平成17年度輸入	平成18年度輸入	平成19年度輸入	平成20年度輸入	平成21年度輸入	合計
米国	36	36	36	36	36	43	36	504
タイ	15	19	19	18	25	27	33	274
中国	11	10	9	8	8	7	7	124
オーストラリア	9	2	2	5	-	-	-	100
その他	5	10	11	10	1	0	1	54
合計	76	77	77	77	70	77	77	1056

注:各年度の輸入契約数量の推移。

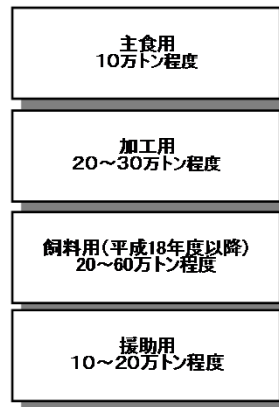
(参考)MA米以外で、枠外税率を支払って輸入されるコメの数量は、毎年0.1~0.2千トン程度

## ○ MA米の販売状況(平成22年10月末現在)

平成7年4月～平成22年10月末の合計



最近における単年度の平均的販売数量



(単位:玄米ベース)

注1:「輸入数量」は、平成22年10月末時点の実績。また、食用不適品として処理した3万トン、バイオエタノール用へ販売した2万トンが含まれる。

注2:「主食用」は、主に外食産業などの業務用。

(※なお、MA米輸入開始以降、その主食用販売数量の合計を大きく上回る量の国産米(合計194万トン)を、飼料用(72万トン)、援助用(122万トン)に活用。)

注3:「加工用」は、みそ、焼酎、米菓等の加工食品の原料用。

注4:「在庫」は、平成22年10月末時点の数量。

注5:在庫88万トンには、飼料用備蓄35万トンが含まれる。

## ○ MA米の販売状況(年度別)

(単位:万玄米トン)

販売先	8RY	9RY	10RY	11RY	12RY	13RY	14RY	15RY	16RY	17RY	18RY	19RY	20RY	21RY	22RY	合計
主食用	—	3	4	10	10	9	10	4	6	8	10	11	10	8	8	111
加工用	12	28	19	28	24	27	24	21	31	25	25	36	37	21	21	379
飼料用	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	15	58	66	25	42	206
援助用	—	12	34	23	26	21	23	20	22	17	13	8	12	20	14	265
在庫	31	39	42	44	56	75	95	127	148	175	189	152	97	95	88	—

注1:RY(米穀年度)とは前年11月から当年10月までの1年間である

(例えば22RYであれば、平成21年11月から平成22年10月まで)。

注2:この他に、食用不適品として処理した3万トン、バイオエタノール用に販売した2万トンが含まれる。

注3:ラウンドの関係で、合計と内訳が一致しない場合がある。



## 16 商業用のコメの輸出数量等の推移

	2005年		2006年		2007年		2008年		2009年		2010年 (1月～9月)	
	数量 トン	金額 百万円	数量 トン	金額 百万円	数量 トン	金額 百万円	数量 トン	金額 百万円	数量 トン	金額 百万円	数量 トン	金額 百万円
輸出合計	634 (+55%)	320 (+36%)	967 (+53%)	427 (+34%)	940 (-3%)	527 (+24%)	1,294 (+34%)	641 (+50%)	1,312 (+1%)	545 (-15%)	1,228 (+59%)	453 (+35%)
香港	99	57	155	74	218	119	341	172	481 (+41%)	206 (+20%)	472 (+44%)	176 (+26%)
台湾	413	169	593	161	450	175	453	168	333 (-26%)	115 (-31%)	185 (+1%)	63 (-4%)
シンガポール	63	35	63	40	92	48	173	81	185 (+7%)	79 (-2%)	208 (+81%)	81 (+54%)
豪州	0	0	0	1	1	1	22	4	36 (+64%)	10 (+138%)	54 (+218%)	14 (+146%)
フランス	3	2	1	10	3	14	5	9	34 (+580%)	16 (+65%)	13 (+225%)	6 (+7%)
中国	0	0	2	7	72	43	90	52	30 (-67%)	14 (-73%)	-	-
英国	6	9	4	16	4	18	9	18	26 (+189%)	15 (-17%)	19 (+27%)	9 (-14%)
米国	16	25	128	99	41	71	26	49	17 (-35%)	28 (-42%)	28 (+250%)	18 (-4%)
ロシア	0	0	0	1	4	3	63	28	10 (-84%)	4 (-87%)	38 (+443%)	11 (+421%)
その他	34	22	21	18	55	36	112	59	160 (+43%)	57 (-3%)	169 (+74%)	52 (+51%)

資料：財務省「貿易統計」

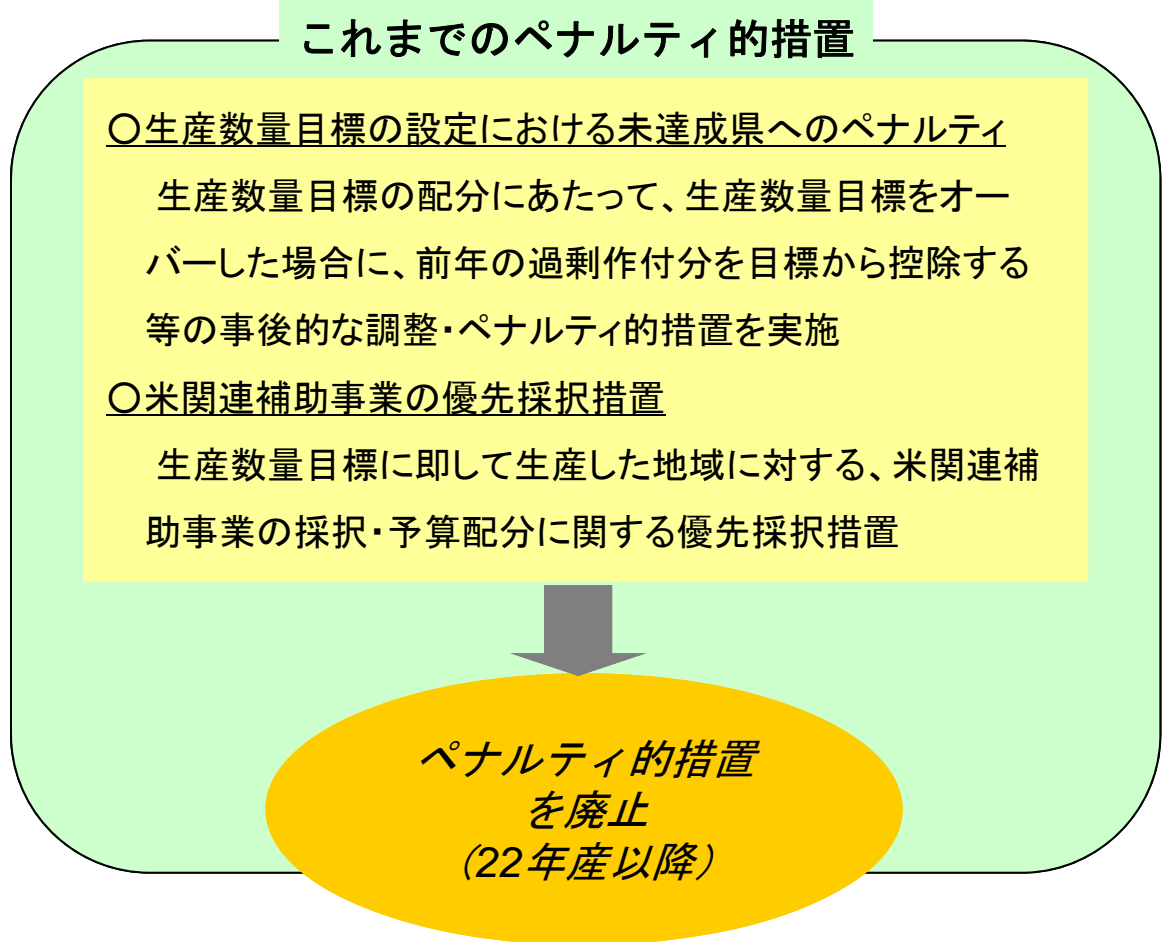
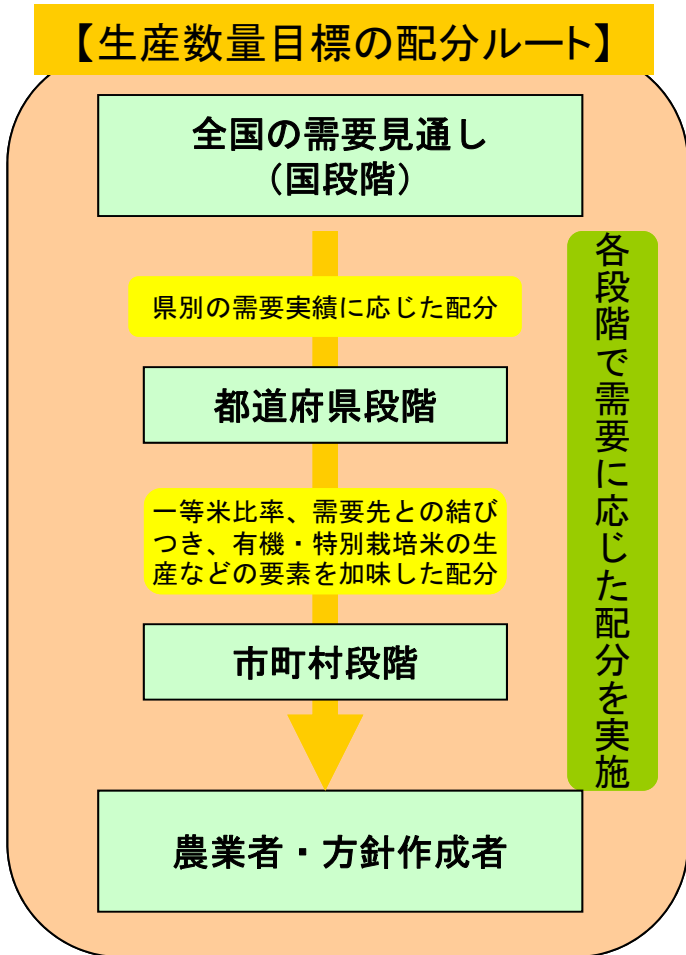
注1：（ ）内は対前年同期増減率である。

注2：「その他」に含まれる国は、ドイツ、アルジェリア、パナマなど25ヶ国

注3：数量においては1トン未満、金額においては20万円未満はカウントされていないほか、援助用と推察されるものを除いている。

# 17 平成22年産米の生産数量目標の設定について

- 平成22年産米に対する米戸別所得補償モデル事業は、初めて米の生産を直接的に支援するものであり、これまで以上に国民（消費者）が求める米が生産されるよう誘導する必要。このため、引き続き過去の需要実績等を基に生産数量目標を配分することにより、需要に応じた生産を推進。
- また、本事業は、米の所得を補償するという強力なメリットを付与することにより、米の需給調整を達成しようとするもの。このため、できるだけ多くの農業者が需給調整に参加するよう、需給調整に伴う強制感を払拭することとし、22年産以降、ペナルティ的措置を廃止。



## 18 全国の需給調整の取組状況の推移(平成16年産～22年産)

年産	生産数量目標 ① 万トン	実生産量 ② 万トン	目標超過 数量 ②-① 万トン	①を面積換算 したもの ③ 万ha	実作付面積 ④ 万ha	過剰作付 面積 ④-③ 万ha	作況 指数 ⑤
16	857.4	859.9	2.4	163.3	165.8	2.5	98
17	851.0	893.3	42.3	161.5	165.2	3.7	101
18	833.1	839.7	6.6	157.5	164.3	6.8	96
19	828.5	854.0	25.6	156.6	163.7	7.1	99
20	815.0	865.4	50.4	154.2	159.6	5.4	102
21	815.0	831.0	16.0	154.3	159.2	4.9	98
22	813.0	823.9	10.9	153.9	158.0	4.1	98

注1:①の生産数量目標は、都道府県間調整や消費純増策(～平成19年産)による補正を行った後の数値。

注2:②の実生産量は、統計部公表の収穫量から加工用米の集荷実績数量及び新規需要米(平成20年産以降)の取組計画認定数量を控除したもの。

注3:④の実作付面積は、統計公表の水稲作付面積から加工用米・新規需要米等の取組計画認定面積を控除したもの。

注4:22年産の②の実生産量、④の実作付面積及び⑤の作況指数は、統計部公表「平成22年産水稲の作付面積及び予想収穫量(10月15日現在)」の参考値(「予想収穫量(主食用)」、「主食用作付見込面積」及び「作況指数」)。

# 19 平成22年産米における都道府県別の需給調整の取組状況

都道府県名	生産数量 目標 ①	①を 面積換算 したもの ②	全水稲作付 面積 ③	加工用米		主食用水稲 作付面積 ⑥-③-④-⑤	⑥-② ⑦	作況指数 (10月15日現在) ⑧	都道府県名	生産数量 目標 ①	①を 面積換算 したもの ②	全水稲作付 面積 ③	加工用米		主食用水稲 作付面積 ⑥-③-④-⑤	⑥-② ⑦	作況指数 (10月15日現在) ⑧
				面積 ④	新規需要 米等面積 ⑤								面積 ④	新規需要 米等面積 ⑤			
全国	ト 8,129,990	ha 1,538,697	ha 1,657,000	ha 39,327	ha 37,573	ha 1,580,101	ha 41,400	98		ト 174,460	ha 33,680	ha 33,400	ha 606	ha 304	ha 32,489	ha ▲ 1,191	100
北海道	604,510	112,990	115,100	2,028	676	112,396	▲ 594	98	滋賀	174,460	33,680	33,400	606	304	32,489	▲ 1,191	100
青森	267,300	46,090	50,400	2,227	1,101	47,072	982	100	京都	80,720	15,810	15,800	77	70	15,653	▲ 157	99
岩手	295,240	55,390	57,600	1,595	1,195	54,810	▲ 580	104	大阪	28,000	5,680	5,820	0	5	5,815	135	98
宮城	382,210	72,121	76,100	1,352	2,928	71,820	▲ 301	103	兵庫	193,010	38,327	39,000	522	357	38,121	▲ 206	96
秋田	461,870	80,703	92,800	8,179	2,342	82,279	1,576	93	奈良	43,630	8,519	9,400	2	72	9,326	806	98
山形	381,170	64,170	69,700	2,748	1,673	65,279	1,109	100	和歌山	37,130	7,536	7,620	-	3	7,617	82	99
福島	365,020	68,025	81,900	1,125	1,412	79,362	11,338	103	鳥取	72,360	14,096	14,600	86	408	14,107	11	99
茨城	355,390	68,340	78,300	1,794	1,096	75,410	7,070	100	島根	98,000	19,250	19,900	180	557	19,163	▲ 87	95
栃木	321,790	59,700	65,800	1,586	2,301	61,913	2,213	99	岡山	167,230	31,790	34,300	226	633	33,441	1,651	97
群馬	83,250	16,850	18,500	676	555	17,269	419	82	広島	138,090	26,400	26,500	217	237	26,046	▲ 354	98
埼玉	161,280	32,857	36,100	99	592	35,408	2,551	86	山口	121,630	24,130	24,000	0	130	23,870	▲ 260	97
千葉	262,150	49,180	62,200	601	798	60,801	11,621	102	徳島	60,880	12,860	13,700	-	247	13,453	593	99
東京	930	230	179	-	0	179	▲ 51	97	香川	76,490	15,331	15,300	-	50	15,250	▲ 81	101
神奈川	14,940	3,060	3,220	-	5	3,215	155	98	愛媛	79,680	16,000	15,900	-	78	15,822	▲ 178	99
新潟	560,485	104,243	119,600	7,453	3,501	108,647	4,403	97	高知	52,070	11,383	13,500	2	423	13,075	1,693	98
富山	206,730	38,640	39,900	1,414	356	38,129	▲ 511	101	福岡	197,350	39,550	40,400	428	992	38,980	▲ 570	97
石川	132,430	25,551	26,600	987	146	25,467	▲ 84	101	佐賀	149,565	28,379	28,100	107	285	27,708	▲ 671	94
福井	136,060	26,320	27,000	745	196	26,060	▲ 260	100	長崎	67,120	14,160	14,200	20	238	13,942	▲ 218	94
山梨	28,750	5,260	5,300	18	18	5,264	4	97	熊本	207,080	40,210	43,500	306	4,110	39,084	▲ 1,126	99
長野	205,900	33,088	34,800	512	281	34,007	918	98	大分	126,910	25,230	25,700	37	1,356	24,308	▲ 922	98
岐阜	122,755	25,158	25,500	161	631	24,709	▲ 450	97	宮崎	102,940	20,880	23,200	62	3,167	19,971	▲ 909	100
静岡	87,390	16,797	17,900	92	477	17,332	535	98	鹿児島	120,360	25,130	25,600	338	853	24,409	▲ 721	100
愛知	144,265	28,453	31,200	308	318	30,573	2,120	98	沖縄	3,210	1,040	960	-	50	910	▲ 130	99
三重	150,260	30,110	31,300	411	350	30,539	429	100									

注1: ①は県間調整後の数値。  
 注2: ③は統計部公表「平成22年産水稲の作付面積及び9月15日現在における作柄概況」の作付面積(青刈り面積含む)。  
 注3: 新規需要米等面積は、新規需要米認定面積のほか、新規需要米扱いとなっていない青刈り分を含む。  
 注4: ラウンドの関係で内訳と合計が一致しない場合がある。

## 20 販売目的で作付けした水稻の作付面積規模別農家数(平成17~21年)

上段(農家数) : 千戸

下段(割合) : %

	北海道					都府県					
	計	3ha未満	3ha~5ha	5ha~10ha	10ha以上	計	1ha未満	1ha~2ha	2ha~3ha	3~5ha	5ha以上
平成17年	20	6	4	7	3	1,383	1,022	244	64	35	18
	(100.0)	(30.0)	(20.0)	(35.0)	(15.0)	(100.0)	(73.9)	(17.6)	(4.6)	(2.5)	(1.3)
平成18年	18	4	4	6	3	1,370	989	251	61	38	31
	(100.0)	(22.2)	(22.2)	(33.3)	(16.7)	(100.0)	(72.2)	(18.3)	(4.5)	(2.8)	(2.3)
平成19年	18	4	4	6	4	1,308	943	246	60	37	22
	(100.0)	(22.2)	(22.2)	(33.3)	(22.2)	(100.0)	(72.1)	(18.8)	(4.6)	(2.8)	(1.7)
平成20年	17	4	4	5	4	1,259	904	231	63	37	24
	(100.0)	(23.5)	(23.5)	(29.4)	(23.5)	(100.0)	(71.8)	(18.3)	(5.0)	(2.9)	(1.9)
平成21年	17	3	4	5	4	1,225	880	226	59	35	24
	(100.0)	(17.6)	(23.5)	(29.4)	(23.5)	(100.0)	(71.8)	(18.4)	(4.8)	(2.9)	(2.0)

(注) 平成17年は、「2005年農林業センサス」、その他の年は、「農業構造動態調査」の調査結果に基づく。

農林業センサスは全数調査であるが、農業構造動態調査は標本調査である。

ラウンドの関係で計と内訳の合計が一致しない場合がある。

# 21 米の作付規模別10a当たり生産費 ①

上段(生産費) : 円

28

下段(指数) : %

〔全国〕

		平均	0.5ha未満	0.5~1.0ha	1.0~2.0ha	2.0~3.0ha	3.0~5.0ha	5.0~10.0ha	10.0~15.0ha	15.0ha以上
平成 17 年産	全算入生産費	146,687	200,642	177,601	150,377	125,333	123,724	107,867	105,529	100,117
		100	137	121	103	85	84	74	72	68
	物財費	76,831	103,936	95,617	78,566	63,268	64,411	56,011	56,160	52,859
		100	135	124	102	82	84	73	73	69
労働費	43,884	69,534	54,551	45,784	36,885	32,726	27,027	27,679	25,087	
	100	158	124	104	84	75	62	63	57	
平成 18 年産	全算入生産費	143,538	197,034	169,491	151,532	128,532	119,560	106,619	104,047	98,263
		100	137	118	106	90	83	74	72	68
	物財費	76,610	105,727	93,173	80,695	66,613	62,904	54,326	57,095	54,716
		100	138	122	105	87	82	71	75	71
労働費	41,995	64,668	50,952	45,421	37,535	30,857	27,741	26,240	23,951	
	100	154	121	108	89	73	66	62	57	
平成 19 年産	全算入生産費	140,030	196,352	172,839	145,392	125,157	119,627	103,703	100,399	95,465
		100	140	123	104	89	85	74	72	68
	物財費	75,183	105,203	95,722	77,816	64,812	63,697	54,514	54,308	52,955
		100	140	127	104	86	85	73	72	70
労働費	40,538	64,648	51,489	43,483	36,396	30,369	26,087	24,873	24,402	
	100	159	127	107	90	75	64	61	60	
平成 20 年産	全算入生産費	146,754	217,373	189,499	152,900	130,587	120,748	112,739	103,534	100,494
		100	148	129	104	89	82	77	71	68
	物財費	85,500	125,271	115,072	89,176	73,306	69,262	64,453	59,204	59,718
		100	147	135	104	86	81	75	69	70
労働費	38,654	64,019	49,364	41,051	35,339	30,543	27,672	25,577	21,123	
	100	166	128	106	91	79	72	66	55	
平成 21 年産	全算入生産費	143,434	221,194	182,535	146,738	130,145	118,470	112,432	111,562	93,887
		100	154	127	102	91	83	78	78	65
	物財費	84,097	132,513	111,877	84,210	74,401	67,686	65,611	64,086	54,274
		100	158	133	100	88	80	78	76	65
労働費	37,456	61,634	47,119	40,959	34,892	29,763	26,959	25,449	19,900	
	100	165	126	109	93	79	72	68	53	

(資料)「農業経営統計調査の米生産費統計」に基づく。

(注)下段は、平均を100としたときの、他の階層における指数である。

## 21 米の作付規模別10a当たり生産費 ②

〔北海道〕

上段(生産費) : 円

下段(指数) : %

		平均	2.0~3.0ha	3.0~5.0ha	5.0~10.0ha	10.0~15.0ha	15.0ha以上
平成 17 年産	全算入生産費	110,997	141,101	134,387	107,294	103,773	105,243
		100	127	121	97	93	95
	物財費	60,572	64,060	69,769	60,999	57,589	59,452
		100	106	115	101	95	98
	労働費	31,869	58,473	46,567	28,325	27,806	26,245
100		183	146	89	87	82	
平成 18 年産	全算入生産費	108,565	128,226	114,077	110,639	100,621	103,695
		100	118	105	102	93	96
	物財費	58,934	58,164	54,126	60,055	57,561	60,951
		100	99	92	102	98	103
	労働費	32,156	53,202	42,465	32,367	26,417	25,615
100		165	132	101	82	80	
平成 19 年産	全算入生産費	106,967	121,385	119,056	108,343	100,631	98,458
		100	113	111	101	94	92
	物財費	58,502	53,390	60,096	63,294	54,848	57,071
		100	91	103	108	94	98
	労働費	30,604	48,944	41,689	27,688	26,928	24,457
100		160	136	90	88	80	
平成 20 年産	全算入生産費	112,665	137,995	136,998	109,560	104,681	103,611
		100	122	122	97	93	92
	物財費	64,687	63,878	78,495	62,834	61,101	62,486
		100	99	121	97	94	97
	労働費	31,583	54,741	42,141	31,592	27,311	21,713
100		173	133	100	86	69	

(資料)「農業経営統計調査の米生産費統計」に基づく。

(注)下段は、平均を100としたときの、他の階層における指数である。

# 21 米の作付規模別10a当たり生産費 ③

## 〔都府県〕

上段(生産費) : 円  
下段(指数) : %

		平均	0.5ha未満	0.5~1.0ha	1.0~2.0ha	2.0~3.0ha	3.0~5.0ha	5.0~10.0ha	10.0~15.0ha	15.0ha以上
平成 17 年産	全算入生産費	149,485	200,642	177,601	150,731	124,655	122,976	108,020	108,420	97,122
		100	134	119	101	83	82	72	73	65
	物財費	78,106	103,936	95,617	78,767	63,236	64,035	54,725	53,823	49,012
		100	133	122	101	81	82	70	69	63
	労働費	44,824	69,534	54,551	45,925	35,957	31,756	26,692	27,472	24,411
		100	155	122	102	80	71	60	61	54
平成 18 年産	全算入生産費	146,572	197,034	169,491	151,547	128,556	119,898	105,525	108,441	94,630
		100	134	116	103	88	82	72	74	65
	物財費	78,140	105,727	93,173	80,685	67,112	63,444	52,767	56,516	50,545
		100	135	119	103	86	81	68	72	65
	労働費	42,852	64,668	50,952	45,463	36,617	30,150	26,485	26,015	22,837
		100	151	119	106	85	70	62	61	53
平成 19 年産	全算入生産費	142,785	196,352	172,839	145,394	125,430	119,665	102,577	100,198	93,416
		100	138	121	102	88	84	72	70	65
	物財費	76,571	105,203	95,722	77,816	65,632	63,923	52,387	53,832	50,139
		100	137	125	102	86	83	68	70	65
	労働費	41,366	64,648	51,489	43,485	35,502	29,657	25,702	23,043	24,363
		100	156	124	105	86	72	62	56	59
平成 20 年産	全算入生産費	149,672	217,373	189,499	152,904	130,392	119,531	113,748	102,808	99,626
		100	145	127	102	87	80	76	69	67
	物財費	87,281	125,271	115,072	89,161	73,563	68,570	64,966	58,009	58,946
		100	144	132	102	84	79	74	66	68
	労働費	39,258	64,019	49,364	41,077	34,818	29,672	26,437	24,490	20,960
		100	163	126	105	89	76	67	62	53

(資料)「農業経営統計調査の米生産費統計」に基づく。

(注)下段は、平均を100としたときの、他の階層における指数である。



## 22 収入減少影響緩和対策の補てん額

単位：経営体、百万円

年産	積立金納付 経営体数	補てん 経営体数	収入減少 補てん額計	うち交付金	うち農業者 積立額	1経営体当たりの 収入減収補てん額 (千円)
19	70,092	50,210	31,383	24,345	7,038	625
20	81,648	21,259	7,204	5,403	1,801	339
21	82,447	52,002	18,871	14,154	4,718	363

注1： 21年産は、平成22年7月23日現在の暫定値である。

注2： 積立金納付経営体数は、加入申請を行った者のうち、収入減少影響緩和対策に係る積立金を納付した者である。

## 23 平成19～21年産米に対する収入減少影響緩和対策の補てん地域

- 19年産米については、対策加入者がいない東京都、大阪府を除く45道府県の全域又は一部地域において補てん。20年産米については、加入者がいない東京都を除く46道府県のうち24道府県の全域又は一部地域で補てん。
- 21年産米については、加入者がいない東京都を除く46道府県のうち31道府県の全域又は一部の地域で補てん。

平成19年産 〔 全 域:44府県 一部地域: 1道 合 計:45道府県 〕								平成20年産 〔 全 域:17府県 一部地域: 7道県 合 計:24道府県 〕								平成21年産 〔 全 域:25府県 一部地域: 6道県 合 計:31道府県 〕							
北海道	東北	関東・東山	北陸	東海	近畿	中国・四国	九州・沖縄	北海道	東北	関東・東山	北陸	東海	近畿	中国・四国	九州・沖縄	北海道	東北	関東・東山	北陸	東海	近畿	中国・四国	九州・沖縄
北海道	青森県	茨城県	新潟県	岐阜県	滋賀県	鳥取県	福岡県	北海道	青森県	茨城県	新潟県	岐阜県	滋賀県	鳥取県	福岡県	北海道	青森県	茨城県	新潟県	岐阜県	滋賀県	鳥取県	福岡県
	岩手県	栃木県	富山県	静岡県	京都府	島根県	佐賀県		岩手県	栃木県	富山県	静岡県	京都府	島根県	佐賀県		岩手県	栃木県	富山県	静岡県	京都府	島根県	佐賀県
	宮城県	群馬県	石川県	愛知県	(大阪府)	岡山県	長崎県		宮城県	群馬県	石川県	愛知県	大阪府	岡山県	長崎県		宮城県	群馬県	石川県	愛知県	大阪府	岡山県	長崎県
	秋田県	埼玉県	福井県	三重県	兵庫県	広島県	熊本県		秋田県	埼玉県	福井県	三重県	兵庫県	広島県	熊本県		秋田県	埼玉県	福井県	三重県	兵庫県	広島県	熊本県
	山形県	千葉県			奈良県	山口県	大分県		山形県	千葉県			奈良県	山口県	大分県		山形県	千葉県			奈良県	山口県	大分県
	福島県	(東京都)			和歌山県	徳島県	宮崎県		福島県	(東京都)			和歌山県	徳島県	宮崎県		福島県	(東京都)			和歌山県	徳島県	宮崎県
		神奈川県				香川県	鹿児島県			神奈川県				香川県	鹿児島県			神奈川県				香川県	鹿児島県
		山梨県				愛媛県	沖縄県			山梨県				愛媛県	沖縄県			山梨県				愛媛県	沖縄県
		長野県				高知県				長野県				高知県				長野県				高知県	

(注1) 〇は全域において、△は一部の地域において補てんのある地域である。

(注2) ( )は収入減少影響緩和対策への加入者がいない地域である。

# 24 平成21年産米に対する収入減少影響緩和対策の補てん単価

(単位：円/10a)

		標準的収入額	21年産収入額	補てん単価
北海道 (市町村別)	もち以外	88,314~133,570	38,983~121,229	0~13,229
	もち	95,852~134,405	42,412~126,744	0~15,453
青森県 (作柄表示地帯別)		119,242~133,870	123,280~140,990	0
岩手県		129,020	127,724	1,166
宮城県		128,586	128,300	257
秋田県		137,658	137,025	569
山形県		144,286	144,718	0
福島県		135,894	130,742	4,636
茨城県		124,948	126,150	0
栃木県		128,823	131,225	0
群馬県		123,019	123,042	0
埼玉県		122,425	122,303	109
千葉県		128,664	127,358	1,175
神奈川県		120,407	122,550	0
山梨県		137,893	129,194	7,829
長野県		152,481	141,808	9,605
新潟県 (作柄表示地帯別)		147,106~211,727	135,200~193,875	10,715~17,844
富山県		139,481	134,250	4,707
石川県 (作柄表示地帯別)		124,697~136,580	119,315~129,850	4,843~6,057
福井県 (作柄表示地帯別)		121,811~130,385	106,973~120,463	8,929~13,354
岐阜県		119,915	111,519	7,556
静岡県		129,692	123,780	5,320
愛知県 (市町村別)		116,025~132,999	112,214~129,194	2,987~6,586
三重県		125,164	117,845	6,587
滋賀県		123,337	119,748	3,230

		標準的収入額	21年産収入額	補てん単価
京都府		128,178	119,597	7,722
大阪府		123,881	121,811	1,863
兵庫県	醸造用玄米 以外	126,380	121,319	4,554
	醸造用玄米	189,565	178,713	9,766
奈良県		128,940	125,749	2,871
和歌山県		121,576	120,827	674
鳥取県 (市町村別)		106,967~126,499	109,250~119,073	0~8,749
島根県		124,644	118,417	5,604
岡山県		130,218	132,147	0
広島県		130,405	128,209	1,976
山口県		112,697	120,592	0
徳島県		118,552	115,905	2,382
香川県		111,955	115,742	0
愛媛県		121,313	121,565	0
高知県 (作期別)		104,875~118,117	108,031~120,827	0
福岡県 (作柄表示地帯別)		110,548~124,602	109,433~122,967	0~2,416
佐賀県 (作柄表示地帯別)		112,351~120,526	108,539~126,512	0~3,430
長崎県		115,102	117,874	0
熊本県 (作柄表示地帯別)		113,217~126,877	99,877~125,378	0~12,006
大分県		113,404	117,133	0
宮崎県 (作期・作柄表示地帯別)		111,536~124,899	117,136~131,162	0
鹿児島県 (作期別)		115,641~116,599	114,675~123,534	0~869
沖縄県		73,122	75,302	0

(注) 1 補てん単価は、国からの交付金と農業者の積立金の合計である。  
 2 災害等により当年産の単収が減少した場合は、基準収穫量の9割を限度に共済金が支払われる。

# 25 平成22年度戸別所得補償モデル対策の概要

平成22年度においては、「制度のモデル対策」として  
 ① 自給率向上のための戦略作物等への直接助成  
 ② 自給率向上の環境整備を図るための水田農業経営への助成  
 を内容とする対策を実施し、23年度からの本格実施への円滑な移行に資する。

## 2 自給率向上の環境整備を図るための水田農業経営への助成 米戸別所得補償モデル事業【3,371億円】

意欲ある農家が水田農業を継続できる環境を整えることを目的に、恒常的に生産に要する費用が販売価格を上回る米に対して、所得補償を直接支払により実施する。

### (1) 交付単価

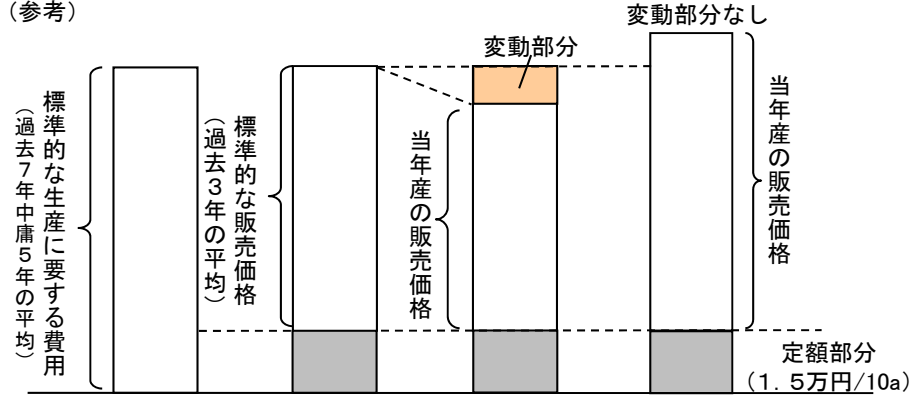
定額部分 (10a当たり)	1万5千円 (標準的な生産に要する費用と標準的な販売価格の差額相当分の助成)
変動部分 (10a当たり)	当年産の販売価格が標準的な販売価格(過去3年平均)を下回った場合、その差額を基に変動部分の交付単価を算定

### (2) 交付対象者

米の「生産数量目標」に即した生産を行った販売農家・集落営農のうち、水稲共済加入者又は前年度の出荷・販売実績のあるもの

### (3) 交付対象面積

主食用米の作付面積から一律10a控除して算定  
(参考)



### (1) 戸別所得補償制度導入推進事業 【76億円】

戸別所得補償制度モデル対策の実施及び23年度からの本格実施への移行に必要なとなる、システム開発・端末整備や直接支払に要する経費を確保するとともに、現場における事業推進や要件確認を行う市町村等に対し必要な経費を助成する。

### (2) 統計調査事業 【4億円】

平成23年度からの戸別所得補償制度の本格実施に向けて、なたね、そば等の生産費や単収に係る新たな統計データを把握できるよう、調査内容を拡充する。

### 1 自給率向上のための戦略作物等への直接助成

#### 水田利活用自給力向上事業【2,167億円】

自給率の向上を図るため、水田を有効活用して、麦・大豆・米粉用米・飼料用米等の戦略作物の生産を行う販売農家に対して、主食用米並の所得を確保し得る水準を直接支払により交付する。

また、従来の助成体系を大幅に簡素化し、全国統一単価の設定など分かりやすい仕組みとする。

#### (1) 交付単価

作物	単価 (10a当たり)	別途経営所得安定対策による助成
麦	35,000円	40,000円
大豆	35,000円	27,000円
飼料作物	35,000円	—
新規需要米 (米粉用・飼料用・バイオ燃料用米、WCS用稲)	80,000円	—
そば、なたね、加工用米	20,000円	—
その他作物 (都道府県単位で単価設定可能)	10,000円	—
二毛作助成(主食用米と戦略作物又は戦略作物同士の組み合わせ)	15,000円	—

#### (2) 交付対象者

これまで需給調整に参加してこなかった農家が参加しやすくなるよう、米の「生産数量目標」の達成にかかわらず助成対象とする。

#### (3) 激変緩和措置

現行に比べて助成額が減少する地域における影響をできる限り緩和するため、以下の激変緩和措置を講ずる。

- ア 単価設定の弾力的運用等
  - ・ その他作物に対する助成を活用した、新規需要米を除く戦略作物への加算
  - ・ 麦・大豆・飼料作物の間の単価調整
  - ・ 二毛作助成による、二毛作可能地域の激変緩和効果
- イ 激変緩和調整枠の設定
  - ・ アの取組を行っても、なお、減少分の激変緩和を行う必要がある場合の措置として、別途の「激変緩和調整枠」を設け、単価変動の大きい作物への加算を実施

## 26 戸別所得補償モデル対策の加入申請状況(確定値)①

### 1. 加入申請件数

#### (1) 経営形態別の加入申請件数

(単位:件、戸)

加入申請件数	経営形態別			
	個人	法人	集落営農	
			構成農家戸数	
1,330,233	1,317,055	5,897	7,281	224,602

(参考) 昨年の経営所得安定対策の集落営農加入数: 5,676 件

#### (2) 事業別の加入申請件数

(単位:件)

加入申請件数	うち 米戸別所得補償モデル事業	うち 水田利活用自給力向上事業
1,330,233	1,177,332	985,019

### 2. 加入申請面積

#### (1) 米戸別所得補償モデル事業

加入申請面積 1,152,339 ha

(参考) 主食用米関係の参考数値

- ・ 水稻共済加入面積から加工用米等の面積を控除した面積(H21): 145 万 ha
- ・ 平成 22 年産主食用米の生産数量目標の面積換算値: 154 万 ha

#### (2) 水田利活用自給力向上事業

(単位: ha)

	加入申請面積 (水田作面積)	参考データ
麦	166,560	○ 水田・畑作経営安定対策の申請面積(田畑合計) H21: 256,327 → H22: 255,426 ○ 産地づくり交付金の助成面積 H20: 109,949
大豆	115,476	○ 水田・畑作経営安定対策の申請面積(田畑合計) H21: 120,899 → H22: 114,066 ○ 産地づくり交付金の助成面積 H20: 109,797
飼料作物 (WCSを除く)	97,708	○ 産地づくり交付金の助成面積 H20: 81,617
米粉用米	4,961	○ 新規需要米取組計画書 H21: 2,401
飼料用米	14,914	○ 新規需要米取組計画書 H21: 4,123
バイオ燃料用米	397	○ 新規需要米取組計画書 H21: 295
WCS 用稲	15,971	○ 新規需要米取組計画書 H21: 10,203
そば	31,908	○ 産地づくり交付金の助成面積 H20: 29,755
なたね	919	-
加工用米	38,943	○ 加工用米取組計画書 H21: 26,126
その他作物	159,752	-

## 26 戸別所得補償モデル対策の加入申請状況(確定値)②

(単位:件、戸)

36

	加入申請 件数	経営形態別			
		個人	法人	集落営農	
				構成戸数	
北海道	27,577	26,573	979	25	182
青森	30,958	30,724	96	138	5,544
岩手	54,498	53,873	141	484	16,948
宮城	56,175	55,301	156	718	12,443
秋田	49,626	48,931	202	493	10,974
山形	39,993	39,539	142	312	10,622
福島	36,916	36,717	91	108	2,049
茨城	46,441	46,197	112	132	3,517
栃木	40,715	40,455	75	185	3,126
群馬	16,862	16,697	81	84	3,247
埼玉	11,289	11,200	36	53	4,052
千葉	9,003	8,928	60	15	338
東京	184	184	0	0	0
神奈川	1,905	1,902	2	1	5
山梨	13,139	13,110	29	0	0
長野	54,294	54,015	171	108	9,433
静岡	6,695	6,654	23	18	217
新潟	69,353	68,468	641	244	3,355
富山	25,685	24,968	296	421	11,722
石川	20,173	19,859	173	141	2,752
福井	25,777	25,279	186	312	7,036
岐阜	48,307	47,991	157	159	8,437
愛知	20,304	20,215	67	22	611
三重	27,704	27,475	88	141	6,351
滋賀	30,610	29,925	165	520	17,094

	加入申請 件数	経営形態別			
		個人	法人	集落営農	
				構成戸数	
京都	26,629	26,380	72	177	3,534
大阪	4,264	4,261	3	0	0
兵庫	76,393	75,978	82	333	13,020
奈良	7,890	7,873	5	12	453
和歌山	10,157	10,151	6	0	0
鳥取	25,088	24,929	87	72	2,193
島根	28,687	28,418	150	119	2,113
岡山	29,726	29,614	82	30	1,163
広島	35,235	34,981	210	44	578
山口	32,536	32,262	136	138	2,509
徳島	9,696	9,660	33	3	18
香川	31,526	31,373	91	62	6,747
愛媛	19,836	19,731	71	34	392
高知	9,409	9,375	29	5	31
福岡	45,089	44,559	125	405	18,392
佐賀	23,727	23,196	49	482	17,763
長崎	17,583	17,478	38	67	2,209
熊本	39,653	39,233	128	292	9,296
大分	25,169	24,868	165	136	3,134
宮崎	32,908	32,812	89	7	246
鹿児島	34,039	33,935	76	28	754
沖縄	810	808	1	1	2

合計	1,330,233	1,317,055	5,897	7,281	224,602
----	-----------	-----------	-------	-------	---------

## 26 戸別所得補償モデル対策の加入申請状況(確定値)③

(単位:ha)

	米戸別所得補償モデル事業	水田利活用自給力向上事業										
		戦略作物										その他作物
		主食用米	麦	大豆	飼料作物(除WCS用稲)	米粉用米	飼料用米	バイオ燃料用米	WCS用稲	そば	なたね	
北海道	111,877	30,849	14,709	24,726	108	385	80	100	7,678	132	2,027	31,880
青森	36,041	2,030	4,018	4,407	98	843	0	163	1,730	48	2,212	7,294
岩手	50,599	3,516	3,595	8,803	44	807	0	326	698	37	1,591	4,775
宮城	68,468	2,605	10,522	6,545	244	1,454	0	1,188	545	29	1,349	3,142
秋田	75,161	453	7,947	2,196	748	730	0	669	1,969	138	8,023	6,749
山形	59,960	106	6,340	2,462	100	1,091	0	435	3,828	29	2,742	5,250
福島	39,904	387	1,400	2,469	76	757	0	550	2,065	33	1,121	2,723
茨城	31,972	5,968	3,190	605	39	565	0	426	1,042	5	1,789	6,295
栃木	45,422	12,774	4,074	4,456	368	1,288	0	619	1,026	11	1,580	5,768
群馬	8,936	7,163	151	247	125	139	0	291	27	0	674	1,106
埼玉	8,297	4,414	356	172	206	285	0	99	73	3	99	1,203
千葉	9,422	488	440	312	31	493	0	233	11	0	590	625
東京	47	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
神奈川	902	5	3	19	0	4	0	0	0	0	0	79
山梨	3,230	19	116	37	11	0	0	7	152	0	18	606
長野	22,707	2,190	1,570	651	72	89	0	116	2,005	4	508	4,335
静岡	5,200	794	237	65	5	299	0	151	52	7	92	623
新潟	93,235	382	6,393	467	1,727	864	317	275	1,246	11	7,435	5,125
富山	37,337	2,990	4,844	364	192	64	0	55	222	52	1,413	1,606
石川	24,866	923	1,201	64	18	112	0	12	291	0	875	812
福井	25,241	4,851	1,275	52	5	101	0	81	2,459	0	742	2,493
岐阜	19,479	3,042	2,364	694	30	497	0	94	205	9	161	5,330
愛知	12,216	5,130	3,983	228	28	205	0	80	28	1	307	1,232
三重	18,691	5,889	3,755	121	83	82	0	133	128	30	410	1,793

(単位:ha)

	米戸別所得補償モデル事業	水田利活用自給力向上事業										
		戦略作物										その他作物
		主食用米	麦	大豆	飼料作物(除WCS用稲)	米粉用米	飼料用米	バイオ燃料用米	WCS用稲	そば	なたね	
滋賀	30,406	7,436	5,642	282	38	99	0	163	401	48	607	1,886
京都	12,126	263	317	90	12	40	0	19	94	0	76	2,113
大阪	811	0	6	1	3	0	0	0	0	0	0	554
兵庫	34,972	2,381	2,055	1,335	51	28	0	194	389	31	522	7,440
奈良	2,280	111	67	4	37	7	0	28	3	1	3	667
和歌山	3,046	0	23	1	0	3	0	0	0	0	0	819
鳥取	12,902	102	766	930	11	186	0	208	280	24	86	2,499
島根	17,660	630	825	635	9	370	0	132	334	31	176	2,621
岡山	15,566	2,076	1,424	1,205	100	240	0	283	158	7	227	2,416
広島	21,074	151	567	1,056	57	16	0	162	432	7	216	2,271
山口	22,568	942	598	970	5	61	0	64	63	2	0	2,246
徳島	2,627	65	52	193	18	182	0	47	3	0	0	2,027
香川	14,286	2,295	116	179	3	22	0	16	27	3	0	1,503
愛媛	10,230	1,659	324	420	10	12	0	58	14	1	0	1,586
高知	3,069	3	123	297	20	337	0	56	14	0	2	2,545
福岡	30,264	20,091	7,840	1,001	40	390	0	564	59	42	428	7,425
佐賀	27,191	20,422	7,489	721	13	132	0	138	16	3	107	2,254
長崎	8,583	1,197	387	3,574	3	109	0	125	83	13	19	1,727
熊本	29,060	5,496	2,073	5,681	111	649	0	3,326	705	69	305	7,698
大分	15,335	4,126	1,834	2,117	15	586	0	755	244	24	36	1,476
宮崎	13,465	53	217	9,075	24	166	0	2,778	239	12	40	3,091
鹿児島	14,714	94	249	7,776	17	127	0	694	868	22	338	1,900
沖縄	897	0	0	7	4	0	0	59	0	0	0	145
合計	1,152,339	166,560	115,476	97,708	4,961	14,914	397	15,971	31,908	919	38,943	159,752

## 27 平成20～22年産の新規需要米の用途別認定状況

用途区分	平成20年産		平成21年産		平成22年産	
	認定数量(トン)	認定面積(ha)	認定数量(トン)	認定面積(ha)	認定数量(トン)	認定面積(ha)
飼料用米	8,020	1,410	23,264	4,123	81,237	14,883
米粉用米	566	108	13,041	2,401	27,796	4,957
WCS用稲 (稲発酵粗飼料用稲)	—	9,089	—	10,203	—	15,939
バイオエタノール用米	2,426	303	2,314	295	2,940	397
その他(※1) (輸出用、わら専用稲等)	1,373	1,404	2,034	1,120	2,878	896
合計	12,386	12,314	40,654	18,142	114,851	37,072

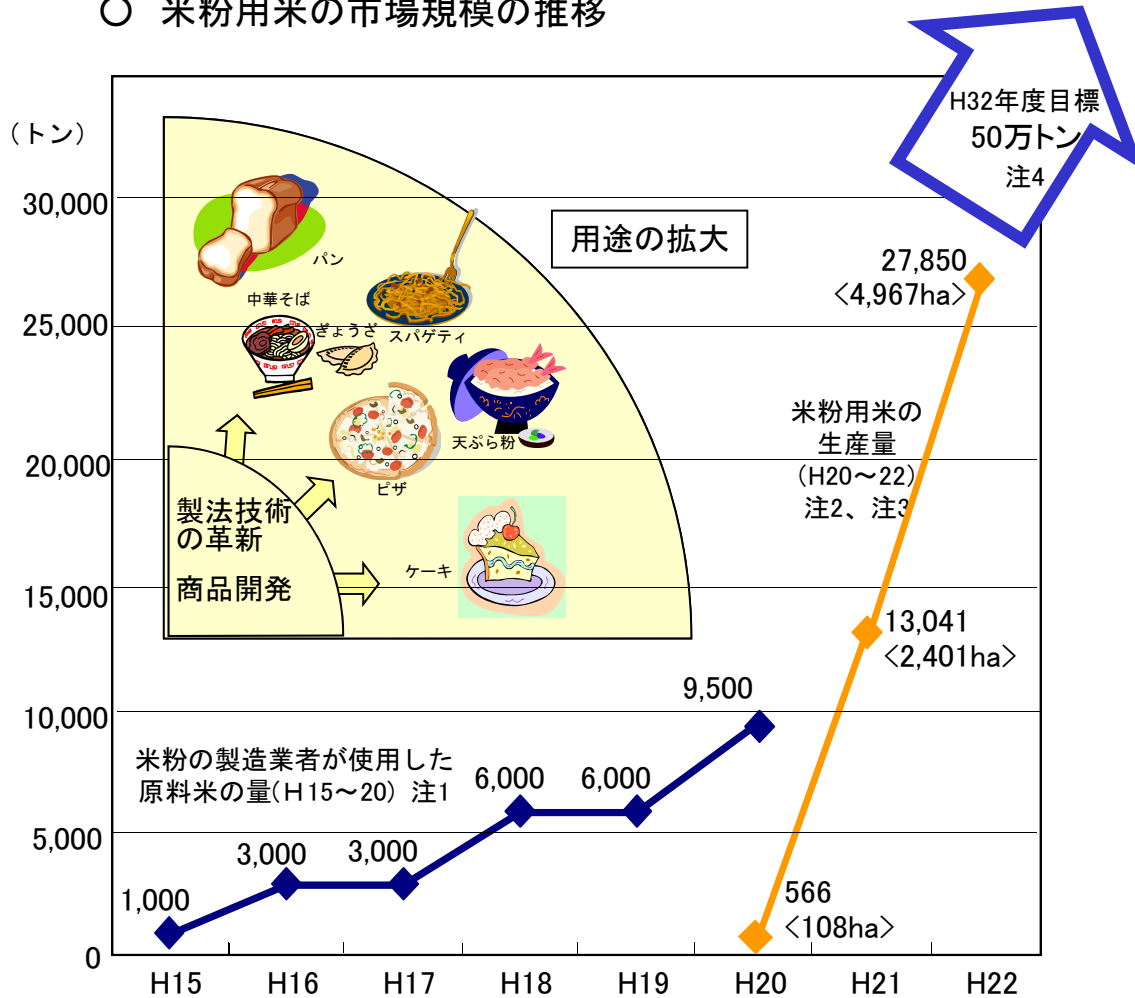
※:WCS用稲、わら専用、青刈り用稲(その他に含む)については子実を採らない用途であるため生産予定数量はなし。



## 28 米粉用米の動向

○ パン用・麺用等について米粉の利用促進を図っており、これまでの地域・中小企業の取組みに加え大手企業も取組みはじめたことから、米粉用米の生産量は平成22年度で約2万8千トンに増加（速報値）。

### ○ 米粉用米の市場規模の推移



< >内の数字は米粉用米の作付面積

注1： 地方農政事務所等による製粉業者等からの聞き取り

注2： 農林水産省調べ（新規需要米取組計画認定結果から抜粋）

注3： 平成22年度は10月15日現在の速報値。

注4： 食料・農業・農村基本計画（H22年3月閣議決定）

### ○ 都道府県別の米粉用米の生産状況（H22）

	生産数量(トン)	作付面積(ha)
新潟県	9,574	1,731
秋田県	5,078	745
栃木県	1,816	366
宮城県	1,368	250
富山県	1,052	192
埼玉県	1,007	206
熊本県	637	109
群馬県	612	124
青森県	584	99
山形県	584	99
北海道	552	108
岡山県	533	100
...	...	...
全国合計	27,850	4,967

注：農林水産省調べ（新規需要米取組計画認定結果から抜粋）

注：数値は10月15日現在の速報値

### ○ 米粉パンの学校給食導入状況

年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度
米粉パン学校給食導入校数(校)	4,067	6,063	7,836	8,067	8,960
給食実施校数(校)	31,902	31,662	31,476	31,362	31,140
米粉パン導入の割合	13%	19%	25%	26%	29%

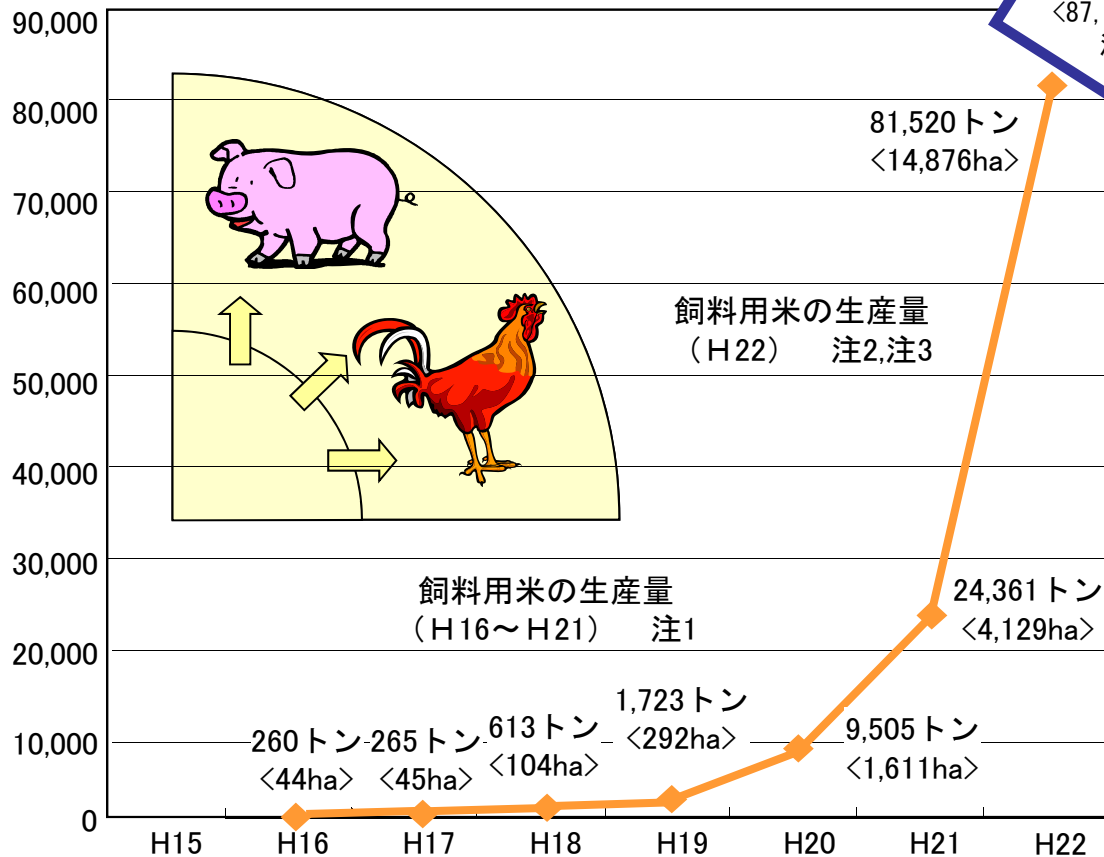
注：農林水産省調べ

# 29 飼料用米の動向

○ 豚・鶏等について飼料用米給与の促進を図っており、飼料用米給与畜産物に対する畜産農家や消費者の理解も深まりつつあることから、飼料用米の生産量は平成22年度で約8万トンに増加(速報値)。

## ○ 飼料用米の市場規模の推移

単位：トン



## ○ 都道府県別の飼料用米の生産状況 (H22)

	生産数量(トン)	作付面積(ha)
宮城県	7,861	1,451
栃木県	6,863	1,285
山形県	6,662	1,092
秋田県	4,954	741
新潟県	4,642	859
青森県	4,583	836
岩手県	4,461	804
福島県	4,003	759
熊本県	3,677	654
茨城県	3,076	554
...	...	...
全国合計	81,520	14,876

注：農林水産省調べ（新規需要米取組計画認定結果から抜粋）  
注：数値は10月15日現在の速報値

注1：農林水産省畜産振興課調べの作付面積に、単収590kg/10aを乗じて算出  
注2：農林水産省調べ（新規需要米取組計画認定結果から抜粋）  
注3：平成22年度は10月15日現在の速報値  
注4：食料・農業・農村基本計画（H22年3月閣議決定）

# 30 米穀等の取引等に係る情報の記録及び産地情報の伝達に関する法律の概要・スケジュール

## 米トレーサビリティ法の概要



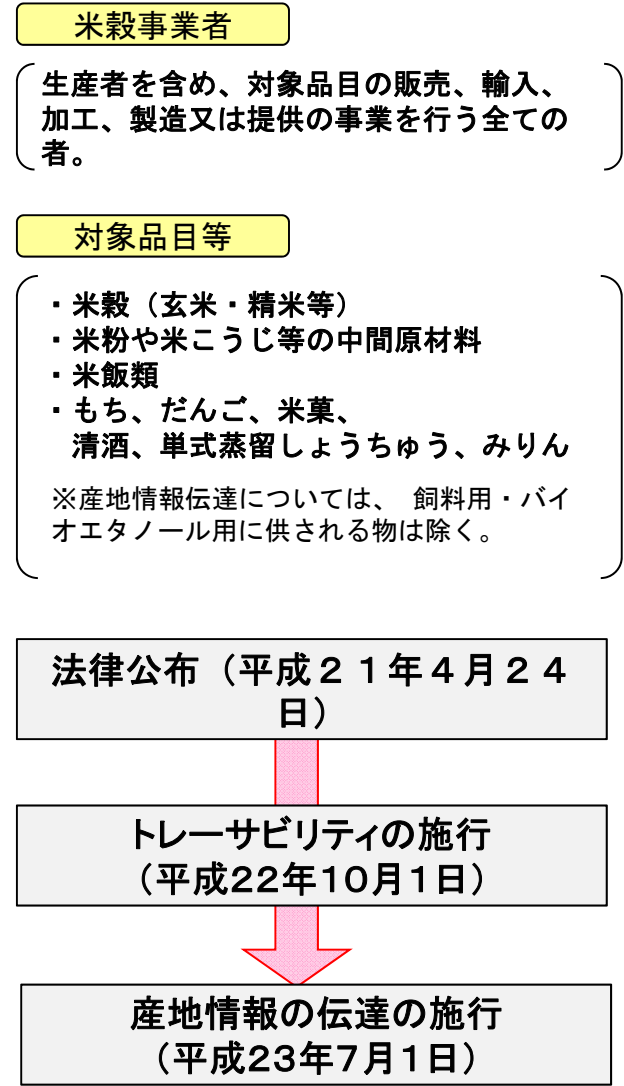
問題が発生した場合の  
流通ルートはやかな特定と回収

米穀等の産地情報を  
一般消費者にまで伝達

取引記録の虚偽記載等の違反があった場合には、50万円以下の罰金。

事業者間で、虚偽の産地情報伝達等の違反があった場合には、50万円以下の罰金。  
一般消費者に対し産地情報伝達の違反があった場合には、勧告・命令（当該命令に従わなかった場合には、50万円以下の罰金）。

## スケジュール等



- 東京穀物商品取引所及び関西商品取引所は、それぞれ「コメ研究会」を設置し、コメを巡る生産・流通事情や先物市場の役割等について検討を実施。
- 東穀、関西取ともに、本年12月中旬頃に報告書の取りまとめを行い、その後、その結果を踏まえて具体的な商品設計等を行う予定。

### ○ コメ研究会の検討状況

#### (1) (株)東京穀物商品取引所

- ① これまで4回の会合(第1回(7月9日)、第2回(9月6日)、第3回(10月20日)、第4回(11月12日))を開催し、コメを巡る生産・流通事情や政策の変化、先物市場の利用可能性、先物市場に対する懸念等について議論。
- ③ 12月10日の第5回会合で報告書を取りまとめ予定。

#### (2) 関西商品取引所

- ① 第1回の会合を10月18日に開催し、11月29日の第2回会合でコメの先物市場の役割と懸念等について議論する予定。
- ② 12月中旬の第3回会合で報告書を取りまとめ予定。

※ なお、コメの先物市場への上場は、平成17年に当時の生産調整政策と整合性が保てないとして、一度不認可とされた。

### ○ 東穀コメ研究会委員

(座長) 茅野 信行(國學院大學経済学部教授)  
岡地 和道(岡地株式会社代表取締役社長)  
木之下 悟(全国主食集荷協同組合連合会常務理事)  
木村 良(全国米穀販売事業共済組合理事長)  
高木 賢(弁護士)  
藤岡 茂憲((有)藤岡農産代表取締役)  
村田 泰夫(元朝日新聞編集委員)  
矢坂 雅充(東京大学大学院経済学研究科准教授)

### ○ 関西取コメ研究会委員

(座長) 宮本 又郎(関西学院大学大学院教授)  
山浦 潔久(全国米穀販売事業共済協同組合専務理事)  
島 実蔵(経済評論家)  
岡地 修一(岡地株式会社取締役)  
黒田 昇(伊丹産業株式会社取締役米穀部部長)  
三宅 輝彦(株式会社大阪第一食糧取締役)  
角石 善英(オリオン交易株式会社顧問)  
藪本 浩(株式会社アルフィックス代表取締役社長)